

科目名	教師論	科目コード	W61001	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
		科目ナンバリング	T-TLFU2-02. NK		30時間				
区分	資格関係科目	担当者名	奥野 武志			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕								
	<p>本授業は、当該回のテーマについて担当教員が講義を行った後、受講者がグループに分かれて意見交換を行い、気づいたことを文章化することを通して、教職という職業について様々な角度から考察する機会を受講者に提供するものである。教職について深く理解した上で、自らの職業として選択するかどうか受講者が判断できるようになることを目指す。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの2に関連する</p>								
到達 目標	<p>1) 公教育の意義を理解し、教職の社会的意義について説明できる。</p> <p>2) 教職に求められる社会的役割について理解し、必要な資質能力について説明できる。</p> <p>3) 教職の全体像を理解し、研修の意義と服務上・身分上の義務について説明できる。</p> <p>4) 教職の諸課題を理解し、組織的に解決に取り組む必要性について説明できる。</p>								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス	・本授業の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明						グループワーク ディスカッション	
第2回	教師観の変遷	・教師観の歴史の変遷を理解し、理想の教師像について考察する。						グループワーク ディスカッション	
第3回	教員養成の歴史	・教員養成の歴史を理解し、教員養成のあり方について考察する。						グループワーク ディスカッション	
第4回	教員の職務の実際(1)	・学級指導の実例をもとに、担任業務の意義について考察する。						グループワーク ディスカッション	
第5回	教員の職務の実際(2)	・生徒指導の実例をもとに、生徒指導の意義について考察する。						グループワーク ディスカッション	
第6回	教員に求められる資質と能力	・教育活動の事例をもとに、教員に求められる資質と能力について考察する。						グループワーク ディスカッション	
第7回	学校の組織と運営	・学校の組織と運営について理解し、「チーム学校」のあり方について考察する。						グループワーク ディスカッション	
第8回	現代社会と教職(1)	・学校教育における国際化について理解し、今後の教職のあり方について考察する。						グループワーク ディスカッション	
第9回	現代社会と教職(2)	・学校教育における情報化について理解し、今後の教職のあり方について考察する。						グループワーク ディスカッション	
第10回	研修の意義	・研修制度について理解し、研修の意義について考察する。						グループワーク ディスカッション	
第11回	教職をめぐる諸問題	・教職についてどのようなことが課題とされているか理解し、今後の教職のあり方について考察する。						グループワーク ディスカッション	
第12回	教育改革の動き	・教育改革の現状について理解し、教育改革のあり方について考察する。						グループワーク ディスカッション	
第13回	教員の任用と服務	・教員の任用と服務についての規定を理解し、教員の服務のあり方について考察する。						グループワーク ディスカッション	
第14回	採用と選考	・教員採用と選考の流れを理解し、教員採用のあり方について考察する。						グループワーク ディスカッション	
第15回	まとめ	・授業全体の総括						グループワーク ディスカッション	
評価 方法 及び 評価 基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み(グループワーク、振り返り) 50% ・まとめレポート 50% 								
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は毎回の授業でグループ発表に対してコメントする。 ・振り返りはオンライン授業アプリを通じて提出する。 								
事前事後 学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。 ・事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。 								
教材 教科書 参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は指定しない。毎回授業レジュメを配布する。 								
留意点	特になし								

科目名	教育原理【2018年度以降入学生】	科目コード	W61024/W61002	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
	教育と人間A【2017年度以前入学生】		T-TLFU2-00.NKS		30時間				
区分	資格関係科目	担当者名	奥野 武志			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	【授業の主旨】								
	<p>本授業は、教職の道を志す者が、最低限理解しておくべき「教育」に関する先人の努力の成果を概観し全体像を把握するためのものである。具体的には、「教育」に関する理論や歴史の基礎について担当教員が講義を行った後、受講者がグループに分かれて意見交換を行い、気づいたことを文章化することを通して、各自が現代の「教育」についての理解を深めていくことを目指す。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの2に関連する</p>								
到達 目標	<p>1) 教育の基本的概念を理解し、教育を成り立たせる諸要因との相互関係について説明できる。</p> <p>2) 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、現代社会における教育課題を歴史的視点から説明できる。</p> <p>3) 教育に関する様々な思想を理解し、現在の学校教育との関わりについて説明できる。</p>								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	ガイダンス	・ 授業の目的・概要・方法を理解し、教育とは何かについて考察する。					グループワーク ディスカッション		
第2回	発達という概念	・ 発達という概念を理解し、発達をめぐる問題について考察する。					グループワーク ディスカッション		
第3回	教育目的という概念	・ 教育目的という概念を理解し、教育目的のあり方について考察する。					グループワーク ディスカッション		
第4回	古代ギリシアの教育	・ 古代ギリシアの教育とソクラテス・プラトンの思想を理解し、現代の教育問題について考察する。					グループワーク ディスカッション		
第5回	宗教改革と教育	・ 宗教改革と教育の関係を理解し、宗教と教育の関係について考察する。					グループワーク ディスカッション		
第6回	コメニウスの教育理論	・ コメニウスの教育理論を理解し、現代の教育問題について考察する。					グループワーク ディスカッション		
第7回	ルソーの教育理論	・ ルソーの教育理論を理解し、現代の教育問題について考察する。					グループワーク ディスカッション		
第8回	フランス革命期の公教育構想	・ コンドルセの公教育論を理解し、現代の公教育をめぐる問題について考察する。					グループワーク ディスカッション		
第9回	デューイの教育理論	・ デューイの教育理論を理解し、現代の教育問題について考察する。					グループワーク ディスカッション		
第10回	マカレンコの教育理論	・ マカレンコの教育理論を理解し、現代の教育問題について考察する。					グループワーク ディスカッション		
第11回	日本における近代学校教育制度の成立	・ 日本における近代学校教育制度の成立過程を理解し、現代の教育問題について考察する。					グループワーク ディスカッション		
第12回	教育勅語体制の成立	・ 近代日本の教育勅語体制について理解し、現代の教育問題について考察する。					グループワーク ディスカッション		
第13回	戦後日本の教育改革	・ 戦後日本の教育改革について理解し、現在の教育とのつながりについて考察する。					グループワーク ディスカッション		
第14回	教育の理念と現実	・ 教育の機会均等の理念と現実に存在する課題について考察する。					グループワーク ディスカッション		
第15回	まとめ	・ 授業全体の総括					グループワーク ディスカッション		
評価 方法 及び 評価 基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への取り組み（グループワーク、振り返り） 50% ・ まとめレポート 50% 								
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師は毎回の授業でグループ発表に対してコメントする。 ・ 振り返りはオンライン授業アプリを通じて提出する。 								
事前事後 学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。 ・ 事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。 								
教材 教科書 参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 湯川次義他『最新 よくわかる教育の基礎』学文社、2019年。(ISBN: 978-4762028700) 								
留意点	特になし								

科目名	教育史【2018年度以降入学生】 教育と人間B【2017年度以前入学生】	科目コード	W61023/W61003	単位数	2単位	対象	2年	開講	後期
	科目ナンバリング	T-TLFU2-01.NK	時間	30時間	学年				
区分	資格関係科目	担当者名	奥野 武志				授業	講義	単独
授業の概要等	【授業の主旨】 弘前市教育委員会『弘前市教育史』を輪読しながら疑問点を議論することを通して、東北屈指の学園都市・弘前がどのように形成されてきたのかを多角的な視点から理解する。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの2に関連する								
到達目標	1) 本学が位置する学園都市弘前の成り立ちについて説明できる。 2) 広い視野から地域の歴史を考えることができる。								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス	・本授業の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明						ディスカッション	
第2回	藩政時代の教育（1）	・城下町弘前とその特質						ディスカッション	
第3回	藩政時代の教育（2）	・藩士の教育						ディスカッション	
第4回	藩政時代の教育（3）	・庶民の教育						ディスカッション	
第5回	藩政時代の教育（4）	・弘前周辺における庶民教育						ディスカッション	
第6回	藩政時代の教育（5）	・藩政時代から明治へ						ディスカッション	
第7回	明治前期の教育（1）	・明治維新と地方制度						ディスカッション	
第8回	明治前期の教育（2）	・社会・経済的変動と士族層						ディスカッション	
第9回	明治前期の教育（3）	・弘前の産業と士族層						ディスカッション	
第10回	明治前期の教育（4）	・明治十三年の大火						ディスカッション	
第11回	明治前期の教育（5）	・明治十四年の天皇御巡幸						ディスカッション	
第12回	東奥義塾の創設とその活動（1）	・義塾創設以前						ディスカッション	
第13回	東奥義塾の創設とその活動（2）	・東奥義塾の創設						ディスカッション	
第14回	東奥義塾の創設とその活動（3）	・義塾の学風と財政						ディスカッション	
第15回	東奥義塾の創設とその活動（4）	・共同会と言論活動						ディスカッション	
評価方法及び評価基準	評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・平常点：100% テキスト音読の出来・ディスカッションへの参加度を評価する。								
課題等	・テキストを読み進めていく上で浮かぶ疑問を積極的に出し合い、その場で議論する。								
事前事後学修	・事前学修：テキストを音読できるよう分からない言葉を調べておく。 ・事後学修：テキストを読み進めるなかで浮かんだ疑問について調べる。								
教材教科書参考書	・教科書：弘前市教育委員会『弘前市教育史 上巻』（1975年、ISBN：なし）から必要部分をコピーして配布する。								
留意点	特になし								

科目名	教育心理学	科目コード	W61004		単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	前期
		科目ナンバリング	T-TLFU2-04. NKN							
区分	資格関係科目	担当者名	前中 香				授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 幼児、児童及び生徒の心身の発達等に関する理解を図るため、教育における発達(幼児の心理を含む)を中心とした心理学的諸過程や教育についての基本的理解を得させ、次学年以降の教育過程の心理学的な理解の導入として位置づける。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの2に関連する</p>									
到達目標	幼児教育及び学校教育全般の基礎的概念を学び、心理学的観点から人間教育を考えることができるようになること									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	人間関係について		人間関係の中でのヒトの成長							
第2回	発達とは何か		発達心理学誕生の経緯と生涯発達心理学の立場の意義							
第3回	発達に関する代表的理論		遺伝ー環境論争の展開とその意義							
第4回	発達の相互作用説		発達の臨界期・敏感期と、発達課題							
第5回	教育と発達		ヴィゴツキーの発達の最近接領域、問題行動を考える							
第6回	言語の発達		音声と語彙の発達、話ことばの発達、読み書きの発達について							
第7回	認知・思考の発達		ピアジェの発達理論							
第8回	社会性の発達(幼児期)		幼児期における社会的な心の発達、心の理論の獲得、コミュニケーションの発達について							
第9回	社会性の発達(児童期以降)		児童期から青年期の社会性の発達、道徳性の発達について							
第10回	学習理論とその実践		学習や記憶に関する諸理論とその活用について							
第11回	動機づけと学習意欲		動機づけの諸理論と学習意欲の向上について							
第12回	学習意欲の喪失		学習意欲の喪失の原因と回復について							
第13回	教育評価の方法と留意点		教育評価の目的・方法、教育評価を歪める要因、ビッグマリオン効果							
第14回	学級集団と集団規範		集団のとらえ方、集団規範とその測定、学級集団の特徴と集団規範							
第15回	児童生徒の個性に応じた指導・支援		児童生徒理解とその留意点、児童生徒の指導・支援のための基本的考え方							
評価方法及び評価基準	試験で評価する(100%)。									
課題等	課題の提出を求められた時には、提出期限を守ること									
事前事後学修	特に事後学習において、配布された資料は整理と自己管理を行うこと。									
教材教科書参考書	教科書なし。資料を配布する。 【参考書】吉川成司、関田一彦、鈎治雄編著『はじめて学ぶ教育心理学』、ミネルヴァ書房、2010年 鎌原雅彦、竹網誠一郎著『やさしい教育心理学 第4版』有斐閣アルマ、1999年									
留意点	特になし。									

科目名	教育関係法規【2018年度以前入学生】 /教育制度論【2019年度以降入学生】		科目コード	W61005/W61026	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	T-TLFU2-03.NK	時間	30時間				
区分	教職科目	必修	担当者名	大野 拓哉				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	【授業の主旨】 「教育」と「法」という、一見馴染みにくそうな関係にあって、「法」はどのように「教育」に関わり、どのように「教育」という営為を捉え、支えているかを考える。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。									
到達 目標	日本国憲法をはじめ、重要な教育法規に関して、その概要をつかみ、その要点を理解することを目指す。									
授 業 計 画										
回	主 題	授 業 内 容							備 考	
第1回	教育に関する法の概観	教育関係の法の体系を学ぶ								
第2回	日本国憲法①	日本国憲法26条「教育を受ける権利」「教育を受けさせる義務」								
第3回	日本国憲法②	日本国憲法23条「学問の自由」ほか								
第4回	子どもの権利条約	子どもの権利条約2条1項、3条1項、7条1項、13条ほか								
第5回	教育機関に関する規定①	学校の設置								
第6回	教育機関に関する規定②	学校の目的と編成								
第7回	教育機関に関する規定③	学校評議員制度と学校運営協議会								
第8回	教育課程に関する規定①	教育課程と学習指導要領、教科書								
第9回	教育課程に関する規定②	出欠席の管理、学年、学期								
第10回	児童・生徒等の就学に関する規定①	就学の権利と義務								
第11回	児童・生徒等の就学に関する規定②	生徒指導								
第12回	児童・生徒等の就学に関する規定③	学校における保健と安全								
第13回	教育職員に関する規定	免許、服務、分限、懲戒等								
第14回	教育行政・財政に関する規定	教育行政の組織、教育財政の仕組み								
第15回	総括	まとめと振り返り								
評価 方法 及び 評価 基準	試験のみを評価の対象とする									
課題等	特になし									
事前事後 学修	特に事後学修に関して、ノートの整理や支持された文献の参照などを行うこと									
教材 教科書 参考書	高見茂・開沼太郎・宮村裕子編『教育法規スタートアップVer. 3.0』ISBN:978-4812215098 昭和堂									
留意点	教育六法等を常に教室に持参すること。随時、グループワークやディスカッションを行う									

科目名	特別な教育的ニーズの理解とその支援		科目コード	W61025	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	T-TLFU2-05. NK		30時間				
区分	資格関係科目	必修	担当者名	川村 泰弘 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	〔授業の主旨〕									
	<p>通常の学級にも発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等を有する、あるいは障害はないものの特別な教育的ニーズを必要とする子どもたちがいる。本講義では、これらの子どもたちが、学校内外において実感・達成感を持ちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、彼らの学習上・生活上の困難を理解し、その教育的ニーズに応じて、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を学ぶを目指します。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの2に関連する</p>									
到達目標	<p>1. 特別の支援を必要とする人の障害の特性及び心身の発達を理解する。</p> <p>2. 特別の支援を必要とする人に対する教育課程や支援の方法を理解する。</p> <p>3. 障害はないが特別な教育的ニーズのある人の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備 考	
第1回	ノーマライゼーションの概念		Normalizationの理念とインクルーシブ教育システム誕生の歴史的経緯							
第2回	インクルーシブ教育		インクルーシブ教育システム構築に至る日本の教育制度の変遷							
第3回	特別支援教育		特殊教育と特別支援教育の相違点及び特別支援教育に関わる制度改正のポイント							
第4回	特別支援教育における支援とは		特別支援教育の場と教育・支援内容:通級による支援や自立活動等を含む							
第5回	視覚障害・聴覚障害		視覚障害、聴覚障害の生活・学習の困難と教育内容							
第6回	知的障害・肢体不自由・病弱		知的障害、肢体不自由及び病弱・身体虚弱の特性と生活・学習上の困難と教育内容							
第7回	LD (学習障害)		LDの特性と支援							
第8回	ADHD (注意欠如・多動症)		ADHDの特性と支援							
第9回	自閉スペクトラム症		ASDの特性と支援							
第10回	貧困や母国語が異なる子どもたち		障害はないものの特別な教育的ニーズを有する子どもの特性と支援							
第11回	特別支援教育の校内体制		特別支援教育コーディネーターの役割と校内支援体制の構築							
第12回	個別の指導計画等の活用		個別の指導計画等の作成の目的と活用方法							
第13回	保護者への対応		保護者との協力関係を構築するために必要な情報及び相談の基本							
第14回	連続性のある支援		大学生の合理的配慮事例からみる早期からの連続性のある支援の意義							
第15回	校内外との連携		教員の専門性と校内外の協働							
評価方法及び評価基準	期末試験、または期末レポートおよび授業内提出物(小レポート等)および授業内での活動をもとに評価を行います。期末試験(レポート)を5割、授業内提出物3割、授業内活動を2割の割合とします。									
課題等	授業内活動で、小レポートを課します。また、グループディスカッションもあります。									
事前事後学修	講義資料へ事前および事後に目を通してください。									
教材教科書参考書	特にありません。講義資料等については印刷物あるいはネット等でアクセスできるようにします。									
留意点	特になし									

科目名	道徳教育の研究【2018年度以前入学生】 /道徳教育の理論と実践 【2019年度以降入学生】		科目コード	W61008/W61027	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	T-TLSP2-00. NK						
区分	資格関係科目		担当者名	奥野 武志			授業 形態	講義	単独	
	教職資格科目(中免必修)	選択必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>学校における道徳教育の歴史を理解するとともに、指導案の作成や模擬授業を通して各自の道徳教育観を育むことを目指す。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの2に関連する</p>									
到達目標	<p>1) 学校における道徳教育の目標や内容を理解し実践的な指導力を身につける。</p> <p>2) 道徳科の特性を踏まえた指導計画を立案し実践することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	ガイダンス		・本授業の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明					グループワーク ディスカッション		
第2回	道徳教育と宗教		・公教育における宗教					グループワーク ディスカッション		
第3回	道徳教育の歴史(1)		・教育勅語と修身教育					グループワーク ディスカッション		
第4回	道徳教育の歴史(2)		・戦後教育改革と「道徳の時間」特設					グループワーク ディスカッション		
第5回	道徳教育の歴史(3)		・道徳の教科化					グループワーク ディスカッション		
第6回	「道徳」授業の方法		・問題解決型の授業の検討 ・モラルジレンマによる道徳授業の紹介					グループワーク ディスカッション		
第7回	特別の教科道徳(1)		・道徳教育の目標 道徳科の内容					グループワーク ディスカッション		
第8回	特別の教科道徳(2)		・道徳科の指導 道徳科の評価					グループワーク ディスカッション		
第9回	授業案の構想		・指導案の相互検討					グループワーク ディスカッション		
第10回	模擬授業		・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント					模擬授業 ディスカッション		
第11回	模擬授業		・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント					模擬授業 ディスカッション		
第12回	模擬授業		・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント					模擬授業 ディスカッション		
第13回	模擬授業		・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント					模擬授業 ディスカッション		
第14回	模擬授業		・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント					模擬授業 ディスカッション		
第15回	まとめ		・全体の総括					グループワーク ディスカッション		
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み(グループワーク、振り返り) 50% ・模擬授業(指導案含む) 50% 									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は毎回の授業でグループ発表や模擬授業に対してコメントする。 ・振り返りはオンライン授業アプリを通じて提出する。 									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。 ・事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。 									
教材教科書参考書	<p>教科書・文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編』2018年。 (ISBN: 978-4316300849)</p>									
留意点	特になし									

科目名	特別活動の研究(教育課程の意義及び編成の方法を含む)【2018年度以前入学生】/特別活動及び総合的な学習の時間指導法【2019年度以降入学生】		科目コード	W61009/W61028	単位数	2単位	対象学年	2年	開講学期	前期
			所属ナレッジ	T-TLSP2-01.NK	時間	30時間				
区分	教職科目	必修	担当者名	西東 克介			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	〔授業の主旨〕 学校の学級活動、生徒会活動、学校行事などが特別活動である。これらの活動が集団の中で、個人の「自律」と協働という2つの能力を向上させていくように、教員・学校は配慮していく。特別活動が集団と個人を比較すると、どちらかと言えば、集団に重心が置かれる。他方で、総合的な学習は、どちらかと言えば、個人の能力をより伸ばそうとするも									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 文学部のコミュニケーション能力、社会福祉学部の社会福祉実践者としての「人づくり」に見られるように、教員は生徒との関わりには積極的である必要があります。これらについても、講義の中で絡めていきます。									
到達目標	個人と個人、個人と集団、集団と集団、小さな集団と大きな集団など様々な協働作業の中で、調整と対立が生じる。その中で、個人や集団はどのように考え行動すべきか。生徒個人・生徒集団・教員・教員集団の立場で考えていく。このように、特別活動は、個人は常に集団との関わりを意識せざるを得ない。個人の能力は重要だが、個人が集団との関わりの中で経験的に学んでいくことが重視される。他方で、総合的な学習の主たる理念は、各教科の専門領域を超えて2教科以上の専門領域を横断的に学習する。個人が各教科の専門領域を超える発想で学習・探求していくことが求められるのである。									
授業計画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	本講義・展開方法・発表・レポートについて		発表は義務だが、評価はしない。発表内容からレポートの作成。							
第2回	特別活動と教育課程		学習指導要領から特別活動の定義と目標を考察。							
第3回	特別活動の基本的性格		特別活動の基本的性格と教育的意義についての考察。							
第4回	特別活動と各教科、道徳、総合的な学習時間との関連		特別活動と各教科、道徳、総合的な学習時間との関連で、最も重要な点は、目に見える活動を通じて、点数化や評価がしにくい部分の能力向上を目指していることへの理解。							
第5回	学級(ホームルーム)活動、生徒会活動、学校行事とは何か		学級活動、生徒会活動、学校行事のメリット・デメリットを考察。							
第6回	学級活動・生徒会活動・学校行事の関係とその意義		「目に見える」・「目に見えない」視点から、3つの活動とその共通点を考察。							
第7回	総合的な学習とは何か		総合的な学習と各教科学習の違いとその意義。							
第8回	総合学習の事例を学ぶ		総合的な学習の事例から横断的な学習のメリットを考察。							
第9回	総合的な学習と特別活動の関係		総合的な学習と特別活動の違いと共通点を考察。							
第10回	学生による発表(1)		指定された字数で、自らの経験を踏まえて自らの特別活動又は総合的な学習の授業計画を作成して発表。							
第11回	学生による発表(2)		(1)の続き:学生の発表に、これを聴講した学生が疑問・意見をぶつける。							
第12回	学生による発表(3)		疑問の工夫と各学生への助言。							
第13回	学生による発表(4)		意見の工夫と各学生への助言。							
第14回	学生による発表(5)		発表のスピードの工夫と各学生への助言。							
第15回	学生による発表(6)		発表時の態度の工夫と各学生への助言。							
評価方法及び評価基準	3つの特別活動又は総合的な学習から一つを選んでレポート(100%)を提出。									
課題等	講義は、小学校・中学校、高校、そしてこれまでの大学生としての経験等を思い出しながら、聞いてください。									
事前事後学習	・講義前日は、教育に関する記事の一つ、新聞かネットニュースで読んでください。講義終了日は、レジュメをさっと読み返し、配布した新聞記事の一つ丁寧に読んでください。 ・適宜、参考書等を講義において示します。									
教材教科書参考書	・適宜、参考書等を講義において示します。									
留意点	第1回目の講義に欠席する学生は事前に西東まで連絡をすること。									

科目名	社会科・地歴科教育法A		科目コード	W61015	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	T-TLS03-00.NO						
区分	教職科目	必修	担当者名	石戸谷 繁 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>はじめに社会科教育の意義、成立と展開を学ぶ。そのうえで学習指導要領の改訂に関して、その趣旨とともに中学校社会科・高校地理歴史科の目標と内容を理解する。後半は、地理的分野の学習の主要テーマに関して、授業作りの観点から具体的な指導と教材化の方法を学ぶ。また、地元弘前をフィールドとして地域探究学習を行う。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの2および3に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>									
到達目標	<p>①社会科の意義・成立と展開、学習指導要領に関する改訂の趣旨、中学校社会科・高校地歴科の目標と内容について学ぶ。②地理科目の主要テーマに関して、生徒に興味関心と思考力を育む授業づくりの実践的指導力を身につける。③地元弘前をフィールドとして探究的な学習の指導力を身につける。</p>									
授業計画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	社会科とは何か(1)		社会科教育の本質：社会科教育とは何かについて考え、参加者は自分の考えを発表する。					ディスカッション		
第2回	" (2)		社会科の成立と展開①：戦前の社会科的教育の歴史：明治から昭和前半までの歴史の展開を踏まえながら、その特色を考える。							
第3回	" (3)		社会科の成立と展開② 戦後の社会科教育の歴史：戦後の歴史の展開・社会の変遷と結びつけながら、その特色を考える。							
第4回	" (4)		学習指導要領の改訂① 学習指導要領のめざすもの：学習指導要領の概要を理解する。							
第5回	" (5)		学習指導要領の改訂② 社会科の教育課程（小・中・高）、社会科改善の基本方針：学習指導要領社会科・地歴科の概要を理解する。							
第6回	" (6)		中学校社会科の目標と内容、高等学校地歴科の目標と内容①：目標と内容について理解する。							
第7回	" (7)		高等学校地歴科の目標と内容②：目標と内容について理解する。							
第8回	地理の授業づくり(1)		興味関心・思考力を育む指導① 地図と地理情報システムについて：教科書・地図・スマホを活用し、具体的な指導方法を考える。							
第9回	" (2)		" ② 生活文化の多様性：教科書を活用し、具体的な指導方法を考える。							
第10回	" (3)		" ③ SDGsについて：教科書を活用し、具体的な指導方法を考える。							
第11回	地域探究(1)		地域探究① 地域探究の方法：探究方法を理解する。							
第12回	" (2)		" ② 巡検：地域を地理的・歴史的観点から捉える。					フィールドワーク		
第13回	" (3)		" ③ 探究課題の設定、計画立案：探究課題を決定し、探究計画を作成する。							
第14回	" (4)		" ④ 分析 調べたことを分析しまとめる							
第15回	" (5)		" ⑤ 発表 まとめたものを発表する					プレゼンテーション		
評価方法及び評価基準	地域探究の発表報告（40点）、レポート（30点）、授業参加（30点）をもとに総合的に評価する。									
課題等	地域探究などのレポート									
事前事後学修	地域探究の準備、配付資料による授業内容の復習を事前・事後学修とします。									
教材教科書参考書	『中学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社 ISBN 978-4-491-03471-3、『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』東洋館出版社 ISBN B978-4-491-03641-0 『高等学校 新地理総合』帝国書院 ISBN 978-4-8071-6535-3									
留意点	タイムリーな世の中の出来事を授業に活用することもあるので、授業の順番を入れ替えることがある。									

科目名	社会科・地歴科教育法B		科目コード	W61016	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	T-TLS03-01.N0		単位時間				
区分	教職科目	必修	担当者名	石戸谷 繁 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>前半は、前期の社会科・地歴科教育法Aにおける社会科の理論と学習指導要領の学習を踏まえたうえで、歴史的分野の学習の主要テーマに関して、授業作りの観点から具体的な指導と教材化の方法を学ぶ。後半は、参加者各自が興味関心をもつ単元に関して、学習指導案を作成して模擬授業を行い、参加者で授業検討を行う。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの2および3に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>									
到達 目標	①地理・歴史科目の主要テーマに関して、生徒に興味関心と思考力を育む授業づくりの実践的指導力を身につける。 ②学習指導案を作成し、模擬授業を経験することにより、実践的指導力を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	地理の授業づくり(4)		興味関心・思考力を育む指導④ 自然災害と防災について：教科書を活用し、具体的な指導方法を考える。							
第2回	" (5)		" ⑤ 地域の教材化：教科書を活用し、具体的な指導方法を考える。							
第3回	歴史の授業づくり(1)		歴史学習の意味と方法：歴史学と歴史教育の点から理解する。							
第4回	" (2)		興味関心・思考力を育む指導① 時代の取り扱い①：時間の認識について理解する。							
第5回	" (3)		" ② 時代の取り扱い②：時代区分について理解する。							
第6回	" (4)		" ③ 歴史の特質と資料①：多様な資料を用いて具体的に理解する。							
第7回	" (5)		" ④ 歴史の特質と資料②：多様な資料を用いて具体的に理解する。							
第8回	" (6)		" ⑤ 探究の方法：課題探究の方法について理解する。							
第9回	" (7)		" ⑥ 中学校歴史「富国強兵と文明開化」：地域の視点からの教材化を考える。							
第10回	" (8)		" ⑦ 中学校歴史「日露戦争」：地域の視点からの教材化を考える。							
第11回	" (9)		" ⑧ 中学校歴史「第二次世界大戦と日本」：地域の視点からの教材化を考える。							
第12回	" (10)		" ⑨ 地域の文化施設の活用：実際に博物館を見学し、地域の歴史を理解し教材化を考える。					フィールドワーク		
第13回	学習指導の計画・実施・評価(1)		学習指導案の作成：指導案について理解し、作成の方法を学ぶ。							
第14回	" (2)		指導案の作成：中学校教科書をもとに、指導案を作成する。							
第15回	" (3)		模擬授業の実施と協議					模擬授業・ディスカッション		
評価 方法 及び 評価 基準	模擬授業・指導案(40点)、レポート(30点)、授業参加(30点)をもとに総合的に評価する。									
課題等	学習指導案・レポートの提出									
事前事 後学修	模擬授業の準備、配付資料による授業内容の復習を事前・事後学修とします。									
教材 教科書 参考書	『中学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社 ISBN 978-4-491-03471-3、『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』東洋館出版社 ISBN B978-4-491-03641-0 中学校教科書『新しい社会 歴史』東京書籍 ISBN 978-4-487-12332-2									
留意点	タイムリーな世の中の出来事を授業に活用することもあるので、授業の順番を入れ替えることがある。									

科目名	社会科・公民科教育法A		科目コード	W61017	単位数 2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			所属 ナンバリング	T-TLS03-02.NO					
区分	教職科目	必修	担当者名	菊地 建一 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>[授業の主旨] 社会科・公民科の教育課程に占める位置・役割を確認した後、その歴史的展開を具体的な実践記録等を取り上げながら検討します。その後、社会科授業を巡る今日的課題を検討するとともに、現行および次期の学習指導要領に示された目標・内容構成を確認します。その上で、学習指導案の作成に取り組んでいきます。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの1に関連します。</p>								
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校社会科および高等学校公民科の歴史的展開と理念、内容構成について理解を深める。 ・望ましい授業のあり方について自らの考えを深め、指導計画を立案することが出来る。 ・アクティブラーニングの方法について学び、授業に取り入れ、生徒の学びが進化するよう、計画、実施出来る。 ・社会事象に興味関心を持ち、様々な事象を「自分事」として考え、受け止めることが出来る。 ・理想の授業、理想の教師像をイメージし、それに近づける努力が出来る。 								
授業計画									
回	主 題		授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション		授業全体の流れを概観しつつ、到達目標を確認する。 MicrosoftTeams / Googleclassroom の利用方法を習得する。				講義 グループワーク		
第2回	教育課程上の社会科・公民科の位置		小・中・高全体の教育課程における社会科および公民科の位置づけについて考察する。また、理想の授業・教師像について考察する。				講義 グループワーク		
第3回	社会科の歴史		社会科の成立、初期社会科における経験主義的立場から系統主義立場への転換、高校社会科の解体と公民科が成立について考察する。				講義 グループワーク		
第4回	社会科・公民科の今日的課題		社会科・公民科が直面する課題と21世紀型学力と社会科・公民科教育の方向性についてについて考察する。				講義 グループワーク		
第5回	オンライン授業の現状と課題		コロナ禍における、オンライン授業のあり方について考察する。 特にICTを活用しながら、オンライン授業の課題を理解する。				講義 グループワーク		
第6回	中学校社会科の目標と内容構成		実践事例を参考にしながら、中学校社会科における目標と内容の構成原理について理解する。				講義 グループワーク		
第7回	高校公民科の目標と内容構成（1）		新科目「公共」について、成立の背景、その目標と内容の構成原理について理解する。				講義 グループワーク		
第8回	高校公民科の目標と内容構成（2）		「政経」「倫理」について、その目標と内容の構成原理について理解する。				講義 グループワーク		
第9回	学習指導案の様式と書き方		具体的な学習指導案をもとに単元指導案と本時指導案の書き方について学ぶ。				講義・演習 グループワーク		
第10回	学習指導案の作成		前時の学習をもとに、具体的な学習指導案に取り組む。				講義・演習 グループワーク		
第11回	単元指導計画の立案（1）		単元指導計画を立案し、単元指導案の作成を試みる。				講義・演習 グループワーク		
第12回	単元指導計画の立案（2）		単元指導計画を立案し、単元指導案の作成を試みる。 ICTを活用し、指導案の発表を行う。				プレゼンテーション		
第13回	教材研究の進め方（1）		単元指導・本時指導に向けての教材研究の深め方について理解し、教材研究を試みる。紙教材、映像教材、ICT教材の活用を習得する。				講義・演習 グループワーク		
第14回	教材研究の進め方（2）		単元指導・本時指導に向けての教材研究の深め方について理解し、教材研究を試みる。ICTを活用し、指導案の発表を行う。				プレゼンテーション		
第15回	まとめと試験		講義全体を振り返る、その上で試験を行う。						
評価 方法 及び 評価 基準	①平常点（20％）、②期末試験（50％）、③学習指導案（30％）によって総合的に評価します。②は社会科・公民科教育についての基本的な事項について理解、および望ましい授業のあり方について自らの考えが構築できているかを基準に評価します。③は学習指導案の体裁が整えられ、授業内容を理解し工夫されているのかを中心に評価します。								
課題等	毎時間リフレクションシートを記入。次回の授業は記述内容を踏まえて進めます。								
事前事後 学習	事前事後学習（課題など）には約3時間程度要します。また、社会科・公民科の授業では時事的な問題が取り上げられることがあります。日頃から意識して、新聞やニュースで時事問題に触れるようにしてください。また、授業内で関心を持った新聞記事・ニュースについてのコメントをしてもらいます。								
教材 教科書 参考書	【教科書】 「公民科教育と学校教育」 梅野正信 他 三恵社 2021年 978-4-86693-367-2 【資料】 文部科学省 「中学校学習指導要領解説社会編」（平成29年度告示） 978-4491034713 【資料】 文部科学省 「高等学校学習指導要領解説公民科編」（平成30年度告示） 978-4487286331								
留意点	1 パソコンの準備をしてください。 2 演習を中心に、実践的な授業です。課題も多くあります。 3 社会の問題を自分事として考え、学びにとどまらず、自らの行動変容も求めます。 4 授業への積極的な参加を期待します。								

科目名	社会科・公民科教育法B		科目コード	W61018	単位数	2単位	対象学年	3年	開講学期	後期
	教職科目	必修	科目ナンバリング	T-TLS03-03.NO	時間	30時間				
区分	教職科目	必修	担当者名	菊地 建一 (実務経験のある教員)			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>社会科・公民科の授業記録の分析を通じて、授業の構成要素と指導のポイントについて理解を深めていきます。その後、「導入」、「説明」、「思考場面・資料操作場面」を各自で構想・展開する演習を行います。その中で、それぞれの特性と課題を把握した上で、最終的に模擬授業を実施していきます。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの1に関連します。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校社会科および高等学校公民科の授業・内容構成について理解を深める。 ・望ましい授業のあり方について自らの考えを深め、指導計画を立案し実践できる。 ・ICT教材やアクティブラーニングの方法について学び、授業に取り入れ、活発な学習活動を作り出せる。 ・社会事象に興味関心を持ち、様々な事象を「自分事」として考え、受け止めることが出来る。 ・理想の授業、理想の教師像をイメージ、それに近づける努力が出来る。 									
授業計画										
回	主 題			授業内容				備 考		
第1回	オリエンテーション			授業全体の流れを概観しつつ、到達目標を確認する。 Googleclassroom (JamBosrd / Forms など) の利用方法を習得する。				講義・演習		
第2回	社会科・公民科の授業分析			実践記録をもとに中学校社会科および高校公民科の授業分析を試みる。				講義・演習		
第3回	社会科授業の構成要素			前時の授業分析を踏まえて、社会科・公民科の授業における構成要素について考察する。				講義・演習		
第4回	授業の「導入」をつくる			授業構成要素のうち、導入について検討し、実際に導入場面の作成を試みる。特に「発問」による導入の例を考える。				グループワーク ディスカッション		
第5回	授業の「導入」を試みる			前時に作成した導入を模擬授業の形式で実際に行ってみる。 特にICTを活用した導入の例を考える。				グループワーク 模擬授業		
第6回	授業における「説明」を構想する			授業構成要素のうち、説明について検討し、実際に説明場面の作成を試みる。特にチャーク&トークによる授業に取り組む。				グループワーク 模擬授業		
第7回	授業における「説明」を試みる			前時に作成した説明場面を模擬授業の形式で実際に行ってみる。 特に生徒相互によるアクティブラーニングの形式で取り組む。				アクティブ ラーニング		
第8回	「思考・資料操作場面」を構想する			授業構成要素のうち、思考・資料操作場面について検討し、実際に思考・資料操作場面の作成を試みる。				グループワーク ディスカッション		
第9回	「思考・資料操作場面」を試みる			前時に作成した思考・資料操作場面を模擬授業の形式で実際に行い、資料活用の重要性、またその効果を理解する。				グループワーク 模擬授業		
第10回	模擬授業と相互批評 (1) 中学地理			受講者による模擬授業を行い、受講者全員で省察検討会を行う。 特に視聴覚教材を活用した授業に取り組み、その効果を理解する。				グループワーク 視聴覚教材活用		
第11回	模擬授業と相互批評 (2) 中学歴史			受講者による模擬授業を行い、受講者全員で省察検討会を行う。 特にICT教材をフルに活用した授業に取り組み、その効果を理解する。				グループワーク ICT活用		
第12回	模擬授業と相互批評 (3) 中学公民			受講者による模擬授業を行い、受講者全員で省察検討会を行う。 特にディベートを取り入れた授業に取り組み、その効果を理解する。				グループワーク ディベート		
第13回	模擬授業と相互批評 (4) 高校公共			受講者による模擬授業を行い、受講者全員で省察検討会を行う。 特にアクティブラーニングの授業に取り組み、その効果を理解する。				アクティブ ラーニング		
第14回	模擬授業と相互批評 (5) 高校政経			受講者による模擬授業を行い、受講者全員で省察検討会を行う。 特に大学入試(共通テスト)を意識した授業のあり方を学ぶ。				グループワーク ディスカッション		
第15回	まとめ			講義全体を振り返り、社会科・公民科授業の在り方について考察を深める。また、理想の授業、教師像について考察する。				グループワーク ディスカッション		
評価方法及び評価基準	<p>①平常点(20%)、②演習(50%)、③学習指導案(30%)によって総合的に評価します。</p> <p>②は「導入」「説明」「思考・資料操作場面」についての演習および模擬授業を通じて、指導内容と指導技術の観点から評価します。③は演習や模擬授業を通じて発見した課題を修正し、より効果的な指導の行える指導案を作成することができているのかを中心に評価します。</p>									
課題等	「導入」、「説明」、「思考場面・資料操作場面」についての演習、及び模擬授業についてはフレクションシートを記入してもらいます。記述内容については次回の授業でコメントし受講者全体で共有します。									
事前事後学習	事前事後学習(課題など)には約3時間程度要します。「導入」、「説明」、「思考場面・資料操作場面」についての演習、及び模擬授業の準備は授業時間内では足りないため、各自で十分に準備し授業に臨むようにしてください。									
教科書教科書参考書	<p>【教科書】 「公民科教育と学校教育」 梅野正信 他 三恵社 2021年 978-4-86693-367-2</p> <p>【資料】 文部科学省 「中学校学習指導要領解説社会編」(平成29年度告示) 978-4491034713</p> <p>【資料】 文部科学省 「高等学校学習指導要領解説公民科編」(平成30年度告示) 978-4487286331</p>									
留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1 パソコンまたはタブレットを使用します。 2 演習を中心に、実践的な授業です。課題も多くあります。 3 社会の問題を自分事として考え、学びにとどまらず、自らの行動変容も求めます。 4 授業への積極的な参加を期待します。 									

科目名	教育の方法と技術(ICT)【2018年度以前入学生】/教育の方法と技術【2019年度以降入学生】	科目コード	W61022/W61030	単位数	2単位	対象学年	2年	開講学期	後期
		科目ナンバリング	T-TLSP2-02.NK	時間	30時間				
区分	資格関係科目	担当者名	佐藤 萬昭 (実務経験のある教員)			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>情報通信技術の急速な発展に伴い、学校においてデジタル教科書、生徒1人に1台のタブレット端末、電子黒板、校内LANなどの導入整備が行われ、その利活用による教育のICT(情報通信技術)化が進められている。</p> <p>本科目では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法の理論や授業における指導技術を概説するとともに、ICTを教育現場における児童生徒への指導にどのように活用するのかについて概説する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>								
到達目標	<p>本科目の到達目標は、次の5つである。</p> <p>(1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解できる。</p> <p>(2) 教育現場におけるICT活用の意義や理論について理解できる。</p> <p>(3) ICTを活用した学習指導や校務の実際とICT環境の整備について理解できる。</p> <p>(4) 教育データの活用や教育情報セキュリティの重要性について理解できる。</p> <p>(5) 情報活用能力を育成する意義および育成方法を身に付ける。</p>								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス	・本科目の概要(科目の意義・目標、授業の進め方、評価の方法) ・現代社会におけるICTの役割							
第2回	教育の現代化と教授理論	・教授法の変遷 ・問題解決学習、プログラム学習及び発見学習の概要							
第3回	情報や知識を提示・伝達する方法と技術	・講義の概要と留意点 ・教科用図書の使用法 ・板書・レジメ・参考資料の活用方法							
第4回	学習意欲を引き出す工夫と授業技術	・発問の種類と意義 ・調べ学習と話し合い学習の概要と留意点							
第5回	学習活動を評価する方法と技術	・成績評価の意義と目的 ・客観的評価と主観的評価の概要と留意点							
第6回	教育現場におけるICTの役割と導入	・教育現場におけるICT活用の意義 ・学校におけるICT環境の整備 ・外部との連携のあり方							
第7回	デジタルコンテンツの利用	・デジタルコンテンツの概要 ・デジタルメディアの特性と活用方法							
第8回	教科指導におけるICT活用(1)	・ICT活用の方法や場面 ・電子黒板の機能と活用方法							
第9回	教科指導におけるICT活用(2)	・デジタル教科書導入の背景 ・デジタル教科書の効果と活用方法							
第10回	特別支援教育におけるICTの活用	・ICT活用のメリットとデメリット ・ICTの活用推進における留意点							
第11回	遠隔教育におけるICT活用	・オンライン授業の方法(同時配信授業、オンデマンド授業など) ・遠隔授業の方法(遠隔交流授業、遠隔合同授業など) ・遠隔教育の接続形態の概要							
第12回	教育ICTの活用事例	・各機種における教育ICTの活用事例 ・中学校英語教育における電子黒板とデジタル教科書の活用事例							
第13回	情報モラル教育	・情報モラル教育の意義と進め方							
第14回	校務の情報化とデータの活用	・ICTの校務への活用 ・学習指導や学習評価における教育データの活用 ・教育情報セキュリティの重要性							
第15回	まとめ	本科目の内容を振り返る							
評価方法及び評価基準	平常点評価(40%)及び試験の結果(60%)を総合的に勘案して評価する。評価に際しては、主体的に講義に参加しているか、講義で学んだ知識を確実に自らのものとする中で論理的かつ明晰な文章で記述できるか、の2点を重点的に評価する。								
課題等	オンライン授業アプリにより適宜指示する。レポート課題はオンライン授業アプリにより提出する。								
事前事後学修	適宜授業中に指示するが、復習を中心に学習を進めること。								
教材教科書参考書	【教科書】使用しない。適宜プリントを配布及びオンライン授業アプリで提示する。 【参考書】文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則篇』978-4827815801								
留意点	質問等はオンライン授業アプリによる双方向的な形態を採用します。日頃から教育のICT化に関わる様々な問題に関心を寄せ、自分なりの考えを持つよう努めてほしい。								

科目名	教育課程とカリキュラム・マネジメント	科目コード	W61021	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
		科目ナンバリング	T-TLFU2-06. NK		30時間				
区分	資格関係科目	担当者名	奥野 武志			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 本授業は、学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義について担当教員が講義を行った後、受講者がグループに分かれて意見交換を行い、気づいたことを文章化することを通して、各自が教育課程についての理解を深めていくことを目指す。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの2に関連する</p>								
到達目標	<p>1) 教育課程・カリキュラムの概念と意義について説明できる。 2) 教育課程編成の基本原則にもとづく編成方法について説明できる。 3) 教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握しマネジメントすることの意義について説明できる。</p>								
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修				備考		
第1回	ガイダンス		・本授業の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明				グループワーク ディスカッション		
第2回	教育課程とカリキュラム		・教科書第1章				グループワーク ディスカッション		
第3回	カリキュラムの類型論		・教科書第2章				グループワーク ディスカッション		
第4回	教育課程と学習指導要領		・教科書第3章				グループワーク ディスカッション		
第5回	教育課程行政の基礎知識		・教科書第4章				グループワーク ディスカッション		
第6回	教科書と学習指導要領		・教科書第5章				グループワーク ディスカッション		
第7回	総合的な学習の時間の成果と課題		・教科書第6章				グループワーク ディスカッション		
第8回	小学校外国語教育の展望		・教科書第7章				グループワーク ディスカッション		
第9回	カリキュラム・マネジメントの理解		・教科書第8章				グループワーク ディスカッション		
第10回	高等学校の多様な教育課程		・教科書第9章				グループワーク ディスカッション		
第11回	学習指導要領の変遷 (1)		・戦後復興からゆとり路線まで (教科書第10章)				グループワーク ディスカッション		
第12回	学習指導要領の変遷 (2)		・グローバル化と学力観の転換 (教科書第11章)				グループワーク ディスカッション		
第13回	教育課程をめぐる今日の動向 (1)		・教育課程の研究校制度 (教科書第12章)				グループワーク ディスカッション		
第14回	教育課程をめぐる今日の動向 (2)		・多文化共生 (教科書第13章)				グループワーク ディスカッション		
第15回	まとめ		・授業全体の総括				グループワーク ディスカッション		
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・授業への取り組み (グループワーク、振り返り) 50% ・まとめレポート 50%</p>								
課題等	<p>・教師は毎回の授業でグループ発表に対してコメントする。 ・振り返りはオンライン授業アプリを通じて提出する。</p>								
事前事後学修	<p>・事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。 ・事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。</p>								
教材教科書参考書	<p>・教科書 吉田武男 (監修) 根津朋実 (編著) 『教育課程 (MINERVAはじめて学ぶ教職 10)』ミネルヴァ書房、2019年。(ISBN: 978-4623084869)</p>								
留意点	特になし								

科目名	アクティブ・ラーニングの理論と実践	科目コード	W61020	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	前期
		科目ナンバリング	T-TLSP2-04. NK						
区分	資格関係科目	担当者名	奥野 武志			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	〔授業の主旨〕								
	講義とディスカッションを通してアクティブ・ラーニングの理論を身につけた上で、模擬授業を行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの2に関連する								
到達目標	1) アクティブ・ラーニングとは何かについて説明できる。 2) アクティブ・ラーニングの観点にもとづく授業を実践できる。								
授 業 計 画									
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修				備 考		
第1回	ガイダンス		・本授業の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明				グループワーク ディスカッション		
第2回	アクティブ・ラーニングとは何か (1)		・授業改革からアクティブ・ラーニングへ (教科書第1章)				グループワーク ディスカッション		
第3回	アクティブ・ラーニングとは何か (2)		・アクティブ・ラーニングへの移行 (教科書第2章)				グループワーク ディスカッション		
第4回	事例検討 (1)		・事例1 事例2 (教科書第3章)				グループワーク ディスカッション		
第5回	事例検討 (2)		・事例3 事例4 (教科書第3章)				グループワーク ディスカッション		
第6回	アクティブ・ラーニングの実践 (1)		・共有財産としての参加型アクティビティ (教科書第4章)				グループワーク ディスカッション		
第7回	アクティブ・ラーニングの実践 (2)		・アクティブラーニングが定着する条件 (教科書第5章)				グループワーク ディスカッション		
第8回	授業案の構想		・指導案の相互検討				グループワーク ディスカッション		
第9回	模擬授業		・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント				模擬授業 ディスカッション		
第10回	模擬授業		・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント				模擬授業 ディスカッション		
第11回	模擬授業		・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント				模擬授業 ディスカッション		
第12回	模擬授業		・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント				模擬授業 ディスカッション		
第13回	模擬授業		・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント				模擬授業 ディスカッション		
第14回	模擬授業		・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント				模擬授業 ディスカッション		
第15回	まとめ		・授業全体の総括				グループワーク ディスカッション		
評価方法及び評価基準	評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・授業への取り組み (グループワーク、振り返り) 50% ・模擬授業 (指導案含む) 50%								
課題等	・教師は毎回の授業でグループ発表や模擬授業に対してコメントする。 ・振り返りはオンライン授業アプリを通じて提出する。								
事前事後学修	・事前学修：アクティブ・ラーニングという観点から今まで受けてきた授業を振り返っておく。 ・事後学修：授業を通じて自分に足りないと感じた知識を積極的に身につける。								
教材教科書参考書	・教科書 渡部淳『アクティブ・ラーニングとは何か』岩波新書、2020年。(ISBN:978-4004318231)								
留意点	特になし								

科目名	生徒指導論(進路指導を含む)【2018年度以前入学生】/生徒指導論・進路指導論(進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を含む)【2019年度以降入学生】		科目コード	W61011/W61029	単位数 2単位 30時間	対象学年	2年	開講学期	後期
	新制ナンバリング			T-TLSP2-05. NK					
区分	教職科目	必修	担当者名	西東 克介			授業形態	講義	単独
授業の概要等	【授業の主旨】 生徒指導は、服装・頭髪指導に見られるように、学校現場では長く合理的管理だと見なされてきた。その中の進路指導も同様に偏差値・成績で同様の指導が行われてきた。だが、今日のキャリア教育を含む生徒指導は、目に見える基準のみで生徒に接することは、生徒の数値化できない、目に見えにくい能力に焦点をあてない管理型の教員となり、生徒も同様の思考になってしまうかもしれない。人間の社会から管理的側面を完全に排除することはできないが、同時に次世代が自らを育む側面を重視するというキャリア教育を含む生徒指導にしていけば、より良い循環となる。どのような学校であれ、まずは時間をかけて生徒の自律的側面を重視する環境を形成していくことです。一方では、他律的な指導と、他方では、生徒の自律的な側面を育み、生徒自身が自らの「マニュアル」を心の中に徐々に作成していく。そうした能力をこれからの時代の教員は磨いていく必要がある。								
	【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 中学校・高校時代に経験してきた頭髪・服装などの生徒指導は、教員・生徒の上下関係を前提に行われることが多くなっています。こうした面を完全に無くすことはできませんが、すでに、またこれから求められる生徒指導のイメージは生徒とのコミュニケーションです。								
到達目標	生徒指導は、教員が生徒に指導・助言を行うことです。だが、教員ができるかぎり、あらゆる生徒に対応できる能力を磨いていこうと思えば、教員が生徒を通じて、生徒から学ぶことを忘れないことです。もちろん、この実践を続けることは、極めて難しい。だが、これにより、キャリア教育を含む生徒指導に創造性・発展性の可能性が見えてくる。現時点で、学校現場に出いていない受講者には、せめてこのことを理解だけでも理解してもらいたい。								
授業計画									
回	主 題		授 業 内 容				備 考		
第1回	本講義の概要・展開方法・試験等の説明		8年間の高校現場での経験をもとに、政治学・行政学・教育学の視点で概説する。						
第2回	生徒個人としての課題とあいさつ (1) 将来と生き方		夢あるいは具体的な目標を持ち、このことを強く信じて生活していくことが、自分を律し、そして能力を高めていくことを概説する。その基本があいさつであることを伝える。				進路キャリア1-1・2・3		
第3回	(2) 進路と職業(キャリア教育)		前回の目標はできれば、生徒が自分の将来の職業と結びつけられるように、担任が少しずつ関連する情報を生徒に提供していく。このことの繰り返しが極めて重要であることを理解する。バブル経済崩壊後、我が国の進学・職業観が変遷中である。こうした中、キャリア教育により、「新たな」進学・職業観を学ぶ必要がある。その背景について学ぶ。				進路・キャリア2-1・2		
第4回	(3) キャリア教育と学習		いわゆる学習は極めて重要だが、部活動や趣味、友人関係においてコツコツと努力する習慣を身につけていくことも重要。なぜなら、その努力する習慣は学習のみならず、あらゆることに応用可能だからです。このことが現段階での職業意識、将来の職業を決めていく過程にも極めて重要であることを伝える(キャリア教育)。				進路・キャリア3-1・2		
第5回	個人と集団の課題としての生活 (1) あいさつと集団		あいさつは、意識せずともできるようになることが必要である。細かな点は別にして、このレベルに達していれば、あらゆることに可能性を導きだせる。				生徒指導1-1・2		
第6回	(2) いじめのおきる背景		いじめがおきる背景を時代の違いで分析する。				生徒指導3-1		
第7回	(3) いじめの社会的分析		いじめ問題は当事者同士のみならず、第三者が関係し強められることが多い。				生徒指導3-2		
第8回	(4) 西東の経験したいじめへの対応		高校の教員時代、人権教育の責任者と生徒指導部のメンバーだったことから、あるいじめ問題に対応責任者として関わった。その時の過程と配慮すべきことの伝達。				生徒指導3-1・2・3		
第9回	授業の初めに、いじめ問題のワークショップを30分間行い、記録を取る。 (5) 掃除と生活態度		いじめ問題をはじめとした生徒指導には、まず教員と学級の生徒たちとの関係づくりから行うこと。そのための最も重要な手段が校内の掃除である。				生徒指導1-3		
第10回	(6) 性の問題と人権		生徒の性の問題や疑問は、一般に外部情報や友人からの情報に影響を受ける。こうした情報には間違いや偏見のあるものが珍しくない。そうした情報に歪められない基本的な考え方を伝える。				生徒指導1-4, 2-3		
第11回	教員と教員相互の課題としての指導体制 (1) ホームルームと担任		学校の基盤は学級である。担任と生徒の地道なホームルーム活動によって、学級は形成されていく。その際の担任の基本的考え方や立場について理解。				生徒指導2-1・2		
第12回	(2) 担任と学年会議		学年は担任・副担任によって学級を形成していく重要な補助組織である。他学級の担任・副担任からの情報により、担当する学級の調整をしていく。				生徒指導2-2・3		
第13回	(3) 人権への配慮と生徒指導部		生徒指導部の活動は学校の秩序形成に寄与する活動である。その際対象となる生徒に人権配慮を常に考えておくことが必要。				生徒指導3-2・3		
第14回	プロフェッショナルとしての教員の資質・どのようにすればこの資質を伸ばせるかについてワークショップを行い、記録を取る。		プロフェッショナルとしての教員の資質の分析。重要な資質は目に見える資質が目に見えにくい資質によって向上していくことを理解。				生徒指導1-4, 3-2・3		
第15回	まとめと試験		全体的まとめと試験				生徒指導3-2・3		
評価方法及び評価基準	ワークショップ(第9回と第14回の2回分)を行い、記録を取る(20%)。試験(80%)文章の構成と論理性を中心に評価								
課題等	・生徒指導における教員は、感情よりも論理が強い。一部の、あるいは時に多くの生徒は、論理よりも感情が強い。このことを全体の講義を通して考えてほしい。								
事前事後学修	・講義前日は、教育に関する記事の一つ、新聞かネットニュースで読んでください。講義終了日は、レジュメをさらっと読み返し、配布した新聞記事の一つ丁寧に読んでください。								
教材教科書参考書	・適宜、参考書等を講義において示します。								
留意点	・教科書はありません。 ・第1回目の講義に欠席する学生は、事前に連絡をすること。								

科目名	学校カウンセリング (教育相談を含む)		科目コード	W61012	単位数	2単位	対象学年	2年	開講学期	後期	
			科目ナンバリング	T-TLSP2-06.NK	時間	30時間					
区分	教職科目	必修	担当者名	前中 香				授業形態	講義	単独	
授業の概要等	〔授業の主旨〕 生徒の心の悩みを聴いて、よりよい対処方法を生徒や保護者とともに考えていくための助言・援助活動である学校カウンセリング(教育相談)の基本的な考え方や、基本的な相談技法の基礎を学ぶ。 講義だけでなく、話し合い活動や演習を取り入れ、開発的教育相談を体験する授業とする。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2及びカリキュラムポリシーの1に関連する										
到達目標	1 学校教育におけるカウンセリング(教育相談)の意義と機能について説明できる。 2 事例を通して、学校生活で生徒たちに起こりうる様々な問題についての理解を深め、対応策について意見を述べる。 3 基本的なカウンセリング(教育相談)の進め方と技法を修得する。										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容						備 考	
第1回	オリエンテーション 学校における教育相談の意義と課題			講義の概要と到達目標、スケジュール等を説明する。 教育相談の特徴、種類の理解を通して教育相談の意義を確認する。 「チーム学校」を進める教員に求められる資質能力を理解する。							
第2回	カウンセリングの理論と基礎知識			ロジャーズやフロイトなどの代表的なカウンセリング理論と精神分析、 認知行動療法などの心理療法的理論の概要を学ぶ。							
第3回	学校におけるカウンセリング			学校におけるカウンセリングの特徴や方法などの概要をとらえる。 カウンセラーの基本的態度であるカウンセリング・マインドについて理解する。							
第4回	カウンセリングの基本技法			生徒の話を引き出す基本的スキル(言語的および非言語的スキル)を学び、 ロールプレイによる「面接の基本的スキル」を体験する。							
第5回	教育相談におけるアセスメント			アセスメントのための情報収集の基本と、心理教育的アセスメントや生態学的アセスメントなどアセスメントの基本を理解する。							
第6回	思春期・青年期の発達課題と教育相談			思春期・青年期の特徴と発達課題を理解するとともに、社会環境や生活環境の急激な変化のなかで心的なバランスを崩しやすい生徒への支援を考える。							
第7回	学級担任が行う教育相談			学級は人間関係を育む場でもある。生徒にとって居心地の良い学級環境と好ましい人間関係と気づくために学級担任が行う予防・開発的教育活動を考える。							
第8回	予防・開発的教育相談のためのグループ・アプローチ			予防・開発的教育相談として学校で多く用いられているグループ・アプローチの種類とそれぞれの特徴について理解する。							
第9回				アサーショントレーニング、構成的グループエンカウンターを体験する。						グループワーク	
第10回	学校全体で進める教育相談			効果的な教育相談を進めるための校内教育相談体制の確立と教職員間の校内連携のポイントを理解する。							
第11回	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの役割			チーム支援を進めるうえで大きな働きが期待されているスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの職務と役割を理解する。							
第12回	保護者との連携と支援			生徒支援における最良の協力・支援者である保護者との連携の進め方を理解する。また、悩みを抱える保護者支援のポイントを学ぶ。							
第13回	「いじめ」の問題を考える			「いじめ」の定義といじめの諸相を理解し、いじめの被害者・加害者・周辺の生徒の心理特徴と支援の在り方を考える。						グループディスカッション	
第14回	「不登校」の問題を考える			「不登校」の原因と心理的特徴を理解し、不登校予防の取り組みと不登校生徒への支援の在り方を考える。						グループディスカッション	
第15回	関係者・関係機関との連携			生徒や学校とのかかわりの深い関係者や、外部関係機関との連携・協力関係の構築について学ぶ。							
評価方法及び評価基準	○演習・協議への参加30%、最終レポート70%の割合で評価する。 ・演習・協議への参加：基本的な相談面接の技法や演習及び事例検討等への参加状況(発言・態度など)により評価する。 ・最終レポートは1,000字程度。										
課題等	課題等や最終レポートは提出期限を守ること。										
事前事後学習	特に事後学習において、配布された資料は整理と自己管理を行うこと。										
教材教科書参考書	教科書：会沢 信彦(2019)『教育相談の理論と方法』北樹出版 ISBN978-4779305986 そのほか、授業時に資料を配布する。 参考書：文部科学省(2010)デジタル版「生徒指導要領改訂版」 ※参考図書は文部科学省HPに掲載されている。										
留意点	日頃から児童生徒に関する様々な問題に関心を寄せ、自分なりの考えを持って授業に臨んでほしい。										

科目名	地域研究(歴史)		科目コード	W63001	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
	教職科目(高一種【地歴】)	必修	担当 者名	W-KY1-01H	時間	30時間				
区分			担当者名	斉藤 利男			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 「地域の歴史」から具体的なテーマを選択し、テキストの講読、資料の分析と、フィールドワークを組み合わせた学習を行う。 ただし、テーマによってはフィールドワークができない場合もありますので、了承下さい。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2及びカリキュラムポリシーの3と関連している。</p>									
到達 目標	テキストを読み内容を理解する能力、資料を分析する能力を高めるとともに、歴史的な思考力と、これらを総合しテーマを深めてゆく力量を、身につける。									
授業計画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	テーマの決定とテキストの選択		「地域」と「全国」を総合するテーマを決定しテキストを選ぶ。過去7年では戦国大名、織田・豊臣政権、伊能忠敬、開国、太平洋戦争、明治維新、アイヌ民族の歴史と文化、をテーマにとりあげた。					演習形式		
第2回	テキスト講読と資料の博捜		テキスト講読を開始し、問題を深めるための資料を探す。					演習形式		
第3回	テキスト講読と資料の分析(1)		テキスト講読と資料分析を進める。不明なところは課題。					演習形式		
第4回	テキスト講読と資料の分析(2)		テキスト講読と資料分析を進める。不明なところは課題。					演習形式		
第5回	テキスト講読と資料の分析(3)		テキスト講読と資料分析を進める。不明なところは課題。					演習形式		
第6回	テキスト講読と資料の分析(4)		テキスト講読と資料分析を進める。不明なところは課題。					演習形式		
第7回	テキスト講読と資料の分析(5)		テキスト講読・資料分析を進める、フィールドワーク対象を検討。					演習形式		
第8回	テキスト講読と資料の分析(6)		テキスト講読・資料分析を進める、フィールドワーク対象を決定。					演習形式		
第9回	フィールドワーク		フィールドワーク実施					演習形式		
第10回	中間発表		フィールドワークをふまえた中間発表を行う					演習形式		
第11回	テキスト講読と資料の分析(7)		テキスト講読と資料分析を進める。不明なところは課題。					演習形式		
第12回	テキスト講読と資料の分析(8)		テキスト講読と資料分析を進める。不明なところは課題。					演習形式		
第13回	テキスト講読と資料の分析(9)		テキスト講読と資料分析を進める。不明なところは課題。					演習形式		
第14回	テキスト講読と資料の分析(10)		テキスト講読を進め、これまでの課題を整理する。					演習形式		
第15回	最終発表		最終発表実施					演習形式		
評価 方法 及び 評価 基準	毎回の演習における議論の参加度に対する評価と(15回×3点=45点、45%)、中間及び学期末における発表の評価(中間25点、25%、学期末30点、30%)を総合して、全体評価とします。									
課題等	毎回の演習で出た問題を課題として、次回の演習で議論を深めるとともに、フィールドワークや発表の素材とします。									
事前 事後 学修	あらかじめ授業で使うテキストを読んでおいて下さい。授業後は課題を確認し、次の授業に向けて考えるのが理想的です。									
教材 教科書 参考書	テキストや資料は当方でコピーし、用意します。参考書は適宜指示します。									
留意点	知は力なり、そして継続も力です。授業への積極的な参加を期待します。									

科目名	障害者教育論		科目コード	W71001	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
	W-KYTO1-01		W-KYTO1-01	30時間						
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	奈良岡 裕 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要	世界や日本の障害児に対する教育の歴史の変遷をたどるとともに、種々の障害の特徴や係わりの基礎的・基本的事項を中心に、特別支援教育制度の推進について理解を深める。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] DPの3に関連し、CPの1に関連している。									
到達目標	1 世界及び日本の障害者に対する歴史の変遷を説明できる。 2 種々の障害の特徴について説明できる。 3 特別支援教育の理念と特別支援教育制度に関する基本的事項について説明できる。									
授業計画										
回	主題		授業内容					備考		
第1回	特別支援教育の理念と基本的な考え		・「サラマンカ声明」について調べておくこと。 ・「障害」とは、障害観の変遷、国際生活機能分類、インクルーシブ教育システム構築の現状							
第2回	障害児教育の歴史		・「京都盲啞院」「養護学校義務化」について調べておくこと。 ・明治から現在に至るまでの障害者教育と世界の障害児教育 ・授業内容をもとに「日本国障害児教育の歴史」をまとめる。							
第3回	特別支援教育の現行制度		・「青森県の特別支援学校」を調べておくこと。 ・特別支援教育及びインクルーシブ教育システム ・就学先決定の仕組み手続き、学習指導要領、教員免許制度							
第4回	自立活動		・「自立活動」について調べておくこと。 ・自立活動とは、自立活動の目標と内容（6区分26項目） ・自立活動の指導の留意点についてまとめる。							
第5回	支援システムの構築と法的整備		・「センターの機能、コーディネーター」について調べておくこと。 ・センターの機能、特別支援教育コーディネーターとは ・特別支援学校が果たすセンターの機能の具体的内容をまとめる。							
第6回	個別の指導計画及び個別の教育支援計画		・長期にわたる支援計画について調べておくこと。 ・個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成 ・二つの計画の違いについてまとめる。							
第7回	視覚障害の特徴と理解		・「視覚障害」について調べる。 ・視覚障害の障害特徴と教育の場 ・授業内容をもとに障害特徴と指導上の配慮事項をまとめる。							
第8回	聴覚障害の特徴と理解		・「聴覚障害」について調べる。 ・聴覚障害の障害特徴と教育の場 ・授業内容をもとに障害特徴と指導上の配慮事項をまとめる。					レポート提出		
第9回	知的障害の特徴と理解		・「知的障害」の定義を調べておくこと。 ・知的障害の障害特徴と教育の場 ・授業内容をもとに障害特徴と指導上の配慮事項をまとめる。							
第10回	肢体不自由・病弱・重複障害の特徴と理解		・「肢体不自由、病弱、重複障害」の定義を調べておくこと。 ・肢体不自由、病弱、重複障害の特徴と教育の場 ・授業内容をもとに障害特徴と指導上の配慮事項をまとめる。							
第11回	学習障害・注意欠陥多動性障害・自閉症の特徴と理解		・「LD、ADHD、AS」の定義を調べておくこと。 ・学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症の障害特徴と教育の場 ・授業内容をもとに障害特徴と指導上の配慮事項をまとめる。							
第12回	情緒障害・言語障害の特徴と理解		・「情緒障害、言語障害」の定義を調べておくこと。 ・情緒障害、言語障害の障害特徴と教育の場 ・授業内容をもとに障害特徴と指導上の配慮事項をまとめる。							
第13回	幼稚園等における特別支援教育		・「幼稚園における支援体制の整備」について調べておくこと。 ・園内組織の整備と特別支援教育の推進 ・授業内容をもとに障害特徴と指導上の配慮事項をまとめる。							
第14回	高等学校における特別支援教育		・「高等学校における支援体制の整備」について調べておくこと。 ・校内組織の整備と特別支援教育の推進 ・校内支援とコーディネーターの役割をまとめる。							
第15回	特別支援教育のまとめ		・授業で配付した資料の内容を整理・確認すること。 ・障害者教育の要点 ・改めて授業内容の要点を確認する。					レポート提出		
評価方法及び評価基準	講義への参加度（30%）、レポート（30%）、試験（40%）により総合的に評価する。 なお、レポート提出に加え、授業の進行を見ながら確認小テストを適宜実施する。									
課題等	レポートについて、授業で指示します。									
事前事後学修	配付された資料を基に各自講義を振り返り、主題毎に、授業内容を予習・復習し、学修を深めることが必要である。									
教材教科書参考書	教科書：『はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために 改定版』 有斐閣アルマ 他に、適宜資料を配付する。 なお、①特別支援学校 教育要領・学習指導要領、②特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼稚園・小学部・中学部）、③同解説 各教科等編（小学部・中学部）、④同解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）は常時手許において参照できるようにすること。 参考書：『新版・キーワードブック特別支援教育-インクルーシブ教育時代の基礎知識』 クリエイトかもがわ									
留意点	紹介する参考図書を積極的に購読し、「特別支援教育」への関心を深めてほしい。									

科目名	知的障害者の心理Ⅱ		科目コード	W71003	単位数	2単位	対象	2年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-KYT03-03.	時間	30時間	学年			
区分	教職科目(特別支援)	必修	担当者名	西沢 勝則 (実務経験のある教員)			授業	形態	講義	単独
授業の概要等	〔授業の主旨〕 知的障害児・者の行動類型、パーソナリティ、社会性や対人関係、コミュニケーションなどを問題として考える。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。									
到達目標	知的障害児・者の行動特性、集団への参加と家庭生活や学校生活への適応、コミュニケーションの問題を理解し、その基礎となっている社会性や対人関係、言語能力などの発達を考慮して指導の工夫ができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	パーソナリティと情動特性		パーソナリティ特性や情動的特性							
第2回	知的障害児の行動特徴		行動特徴、「硬さ」概念の再検討							
第3回	動機づけ		パーソナリティ及び動機づけに影響する要因							
第4回	社会性と対人関係		社会性・対人関係の基礎、共同注意、心の理論							
第5回	集団生活への参加		乳幼児期の人間的ふれあい、集団生活への参加							
第6回	自閉症児の情動理解		顔や視線への感受性、情動理解の特徴							
第7回	言語発達の基礎		言語獲得の流れ、理解と表出、							
第8回	非言語的コミュニケーション		非言語的意思表現、サイン言語による意思伝達の方法							
第9回	言語的コミュニケーション		音声知覚の発達、話し言葉・文字による意思表現の方法							
第10回	幼児期のアセスメント		活動を通じたアセスメント、心理的道具としての絵本							
第11回	絵本の構造と発達順序性		母子活動と絵本の構造、物語理解の発達順序性							
第12回	言語コミュニケーションの機能		社会的相互作用、フォーマット、スクリプト							
第13回	コミュニケーションの指導		社会的文脈、ルーティン、インリアル指導、							
第14回	指導上の課題と提案		レポート作成及び発表						レポート提出	
第15回	試験とまとめ		試験とまとめ							
評価方法及び評価基準	定期試験(30%)、授業への参加度(40%)、レポート(30%) 毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。									
課題等	講義で取り上げた内容から、各自テーマを選びレポートすることを課題とする。									
事前事後学修	講義内容に関連した具体的な事例に接する機会を設けるように努めること。									
教材教科書参考書	参考書 小池敏英・北島善夫 著 『知的障害の心理学—発達支援からの理解—』 北大路書房 2001 ISBN978-4-7628-2215-5									
留意点	小レポートは必要なコメントを付して次回講義時に返却する。									

科目名	肢体不自由者の心理・生理・病理		科目コード	W71004	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
	W-KYT02-04.		単位時間	30時間						
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	西沢 勝則 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>肢体不自由児・者の生理・病理について脳性まひを中心に概説し、その運動障害、行動と心理特性について触れ、学習上や生活上の困難を克服・改善するための対応について検討する。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの1、2、3に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>肢体不自由は四肢体幹の永続的な障害をいうが、中枢神経系の障害である脳性まひ及び骨関節等の障害に関する生理・病理や行動、心理について学び、自立活動の充実など教育の在り方を考える基礎を身につける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション 肢体不自由の概念と就学措置			授業の内容と進め方の説明、肢体不自由の語源と定義、障害の特性、高木憲次						
第2回	肢体不自由教育の歴史			肢体不自由教育の歴史、今日的課題						
第3回	運動機能の発達と障害			運動機能の発達、原始反射、歩行の獲得						
第4回	肢体不自由をもたらす疾患			脳性まひの運動・動作、身体の動き						
第5回	肢体不自由をもたらす疾患			二分脊椎、関節疾患、骨形成不全、進行性疾患						
第6回	障害の理解の方法			障害の一般的理解、個人の事例としての理解						
第7回	重複障害			実態把握、重度・重複障害児、健康の保持						
第8回	重複障害児の対人相互交渉			対人相互交渉の捉え方						
第9回	重度・重複障害児			重度・重複障害児の特性、指導に必要な工夫と配慮						
第10回	肢体不自由児の自立活動			自立活動の計画、課題・内容の設定、評価の視点						
第11回	肢体不自由児の自立活動			生活上の課題、学習上の課題、ポジショニング、教材・教具						
第12回	肢体不自由児の心理			肢体不自由児の社会性、コミュニケーション、認知・思考						
第13回	肢体不自由児の心理			肢体不自由児の心理・行動上の困難、障害受容、ADL						
第14回	肢体不自由教育の課題			肢体不自由教育の課題と考え方				レポート提出 発表		
第15回	試験とまとめ			試験とまとめ						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>定期試験（30％）、授業への参加度（40％）、レポート（30％） 毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。</p>									
課題等	<p>毎回の小レポートのほか、自分で選んだテーマについてレポートを提出する。</p>									
事前 事後 学習	<p>各回の内容に応じて、関連する情報を各自整理すること。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>参考書 川間健之介 長沼俊夫 著 肢体不自由児の教育〔新訂〕放送大学教育振興会 2020 ISBN978-4-595-32171-9</p>									
留意点	<p>障害の有無に拘わらず、子どもを見る、関わる、遊ぶ機会を大切にしてください。</p>									

科目名	知的障害者教育論	科目コード	W71006	単位数	2単位	対象	2年	開講	前期
		W-KYT02-06		時間	30時間	学年			
区分	教職科目(特別支援)	必修	担当者名	山崎 誠悦			授業形態	講義	単独
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 特別支援学校教諭免許状取得に必要な履修科目である。知的障害教育に関する基礎的内容を解説する。知的障害特別支援学校及び知的障害特別支援学級における指導にあたり、児童生徒の心理的特性や学習上の特性、教育課程の編成、教育内容、指導方法等について解説する。知的障害のある児童生徒の自立と社会参加をめざす教育活動を進めていく上での基本的な問題について検討する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>								
	到達目標	<p>(1) 知的障害教育の対象や就学先決定の仕組みと手続きについて理解する。 (2) 知的障害のある児童生徒の心理的特性及び学習上の特性について理解する。 (3) 知的障害特別支援学校及び知的障害特別支援学級における教育課程、指導内容、指導方法について理解する。 (4) 知的障害教育における指導に関する基礎的・基本的事項や指導上の留意事項について理解する。</p>							
授業計画									
回	主題	授業内容						備考	
第1回	オリエンテーション 知的障害教育の歴史(1)	各回の授業内容と進め方及び本授業の評価方法について説明する。欧米における知的障害の問題成立から知的障害教育の成立・発展過程を概観し、欧米における知的障害のある児童生徒に対する教育の変遷についての理解を深める。							
第2回	知的障害教育の歴史(2)	日本における知的障害教育の成立・発展過程を概観する。戦後を中心に知的障害教育に関する教育制度の整備状況や教育実践の変遷について理解を深める。今日の知的障害教育の現状と課題について考察する。							
第3回	知的障害の定義・原因・発見	世界保健機関や米国における知的障害の定義及び分類を概説するとともに、日本における知的障害の定義について解説する。知的障害の原因と発見について理解を深める。							
第4回	知的障害のある児童生徒の心理的特性	知的障害のある児童生徒の障害の程度による身体面及び運動面、知覚面、行動面等の状態像や基本的心理特性について解説する。コミュニケーション面の発達について、知的機能面や対人関係面の発達、養育環境面等から理解を深める。							
第5回	就学先決定のあり方と教育の場	障害のある子どもの就学先決定の仕組みと手続きを解説し、知的障害のある児童生徒の就学先決定のあり方について理解を深める。知的障害のある児童生徒に対する提供可能な教育機能について理解を深める。							
第6回	知的障害特別支援学校における教育課程の編成	知的障害特別支援学校の目的及び教育目標について解説する。知的障害特別支援学校の小学部・中学部・高等部の特徴的な教育課程の編成について理解を深める。							
第7回	知的障害教育における指導の基礎的・基本的事項	知的障害のある児童生徒個々に応じた指導・支援のあり方に関して解説する。学習への動機づけや個人差への配慮、過剰学習、個々の教育的ニーズに即応した指導の基礎的・基本的事項について理解を深める。							
第8回	知的障害教育における指導の形態 各教科等を合わせた指導(1)	知的障害特別支援学校における指導形態として、各教科等を合わせた指導について解説する。日常生活の指導と遊びの指導を取り上げ、指導のねらいや指導内容、指導計画の作成、指導上の留意点について理解を深める。							
第9回	知的障害教育における指導の形態 各教科等を合わせた指導(2)	各教科等を合わせた指導として、生活単元学習を取り上げる。生活単元学習の指導のねらいや指導内容、指導計画、指導の展開における指導上の留意点について解説する。指導事例を紹介し生活単元学習の理解を深める。							
第10回	知的障害教育における指導の形態 各教科等を合わせた指導(3)	各教科等を合わせた指導として、作業学習を取り上げる。作業学習の指導のねらいや指導内容、指導計画、指導の展開における指導上の留意点について解説する。指導事例を紹介し作業学習の理解を深める。							
第11回	知的障害教育における指導の形態 教科別の指導	知的障害のある児童生徒の学習上の特性及び教科指導と教育課程との関連、指導上の留意点について解説する。知的障害特別支援学校における各教科の指導事例を通し、知的障害のある児童生徒に対する教科別の指導の理解を深める。							
第12回	知的障害教育における指導の形態 自立活動の指導	知的障害特別支援学校の自立活動の目標や指導内容、指導計画の作成と内容の取り扱いについて解説する。自立活動の指導と実践事例を紹介し、自立活動の指導方法や指導上の留意点について理解を深める。							
第13回	知的障害特別支援学級の学級経営及び指導の実践	知的障害特別支援学級の学級経営について解説する。教育目標の設定、教育課程の編成、学級経営等の配慮事項について理解を深める。各教科等の指導にあたり、指導計画の作成、指導上の留意点について理解を深める。							
第14回	交流及び共同学習	交流及び共同学習の意義や学習の形態、内容、実施計画、実施上の留意点、評価等について解説する。知的障害特別支援学校や知的障害特別支援学級における実践事例を通し、交流及び共同学習の理解を深める。							
第15回	知的障害教育におけるキャリア教育及び進路指導	知的障害特別支援学校小学部・中学部・高等部におけるキャリア教育の意義やキャリア教育のねらい、内容等について解説する。知的障害のある児童生徒の進路指導について、実践事例を通し理解を深める。							
評価方法及び評価基準	<p>評価は、定期試験、課題レポート、授業への参加度により総合評価(100点、100%)をする。 定期試験50点、50% 知的障害教育に関する基本的な内容や専門的知識、指導・支援の方途に関する修得状況について評価する。 課題レポート30点、30% 授業後に提出する課題について、授業内容を踏まえ自分の考えを論理的に述べているかを評価する。 授業への参加度20点、20% 授業への参加度について評価する。</p>								
課題等	授業後に提出する課題レポートについて、提出後再考する点やさらに調べて理解を深める点を付し、次時に返却する。								
事前事後学習	各回の授業について、授業内容におけるキーワードを提示する。提示されたキーワードを調べ授業に臨む。授業後の課題レポート作成を通して授業内容の理解を深めるようにする。知的障害教育に関する基本的内容の習得をめざす。								
教材教科書参考書	河合紀宗・若松昭彦・牟田口辰巳編著 『特別支援教育総論—インクルーシブ時代の理論と実践—』、北大路書房 ISBN:978-4-7628-2949-9								
留意点	今日のインクルーシブ教育の構築をめざした教育の取り組みの中で、知的障害のある児童生徒個々の教育的ニーズに即応した指導・支援の基本的内容の習得に努めてください。授業中に紹介する関連図書を調べ知的障害教育の理解を深めてください。								

科目名	病弱者教育論		科目コード	W71009	単位数	2単位	対象	3年	開講	後期
			W-KYT02-09.	時間	30時間	学年		学期		
区分	教職科目(特別支援)	必修	担当者名	山崎 誠悦			授業	講義	形態	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>特別支援学校教諭免許状取得に必要な履修科目である。病弱教育に関する基礎的内容を解説する。病弱教育の意義及び児童生徒の心理的特性や学習上の特性について解説する。病弱特別支援学校を中心に、教育課程の編成、個別の指導計画、指導方法、指導上の留意点等指導・支援に関する基礎的・基本的事項を解説する。病弱教育対象の児童生徒の主な病気を取り上げ、児童生徒理解と教育的支援のあり方について理解を図る。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達目標	<p>(1) 病弱教育の対象となる病気と医療・教育的支援内容について理解する。</p> <p>(2) 病弱・身体虚弱児の心理的特性及び学習上の特性について理解する。</p> <p>(3) 病弱特別支援学校における教育課程、指導内容、指導方法について理解する。</p> <p>(4) 病弱教育における指導に関する基礎的・基本的事項や指導上の留意事項について理解する。</p>									
授業計画										
回	主題		授業内容						備考	
第1回	オリエンテーション 病弱教育の意義		各回の授業内容と進め方及び本授業の評価方法について説明する。病弱と身体虚弱の定義について解説する。病弱教育の意義について理解を深める。							
第2回	病弱教育の歴史		日本における病弱教育の成立・発展過程を概観する。戦後の病弱教育に関する教育制度の整備状況を解説する。今日の病弱教育の現状と課題について考察する。							
第3回	就学先決定のあり方と教育の場		病弱教育対象の児童生徒の病気の種類の推移を概観する。就学先決定の仕組みと手続きを解説し、就学先決定のあり方について理解を深める。病弱・身体虚弱児に対する提供可能な教育機能について理解を深める。							
第4回	病弱・身体虚弱児の心理的特性		病弱・身体虚弱児に見られる悩みや不安等を取り上げ、心理・行動面の特徴的な状態像について理解を深める。発達段階から見た心理社会的問題点について考察する。							
第5回	病弱特別支援学校における教育課程の編成		教育課程の意義及び教育課程に関する法令や基本的な要素を解説する。病弱特別支援学校における教育課程の具体例を紹介し、教育課程の編成について理解を深める。							
第6回	病弱教育における各教科の指導		各教科の指導にあたり、児童生徒の学習上の特性、指導目標の設定、指導内容の精選、指導計画の作成、指導上の留意点について解説する。病弱・身体虚弱児に対する教科指導の基礎的・基本的事項について理解を深める。							
第7回	病弱教育における自立活動の指導		自立活動の指導にあたり、実態把握、指導目標の設定、指導内容の選定、指導計画の作成、指導上の留意点について解説する。自立活動の指導に関する基礎的・基本的事項について理解を深める。							
第8回	病弱教育におけるキャリア教育及び進路指導		病弱教育におけるキャリア教育及び進路指導について解説する。病弱特別支援学校高等部における就労体験等を含む職業教育の具体的取り組み、卒業後の追指導や関係機関との連携・支援について理解を深める。							
第9回	白血病の児童生徒の理解と教育的支援		白血病の児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。							
第10回	ネフローゼ症候群の児童生徒の理解と教育的支援		ネフローゼ症候群の児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。							
第11回	気管支ぜんそくの児童生徒の理解と教育的支援		気管支ぜんそくの児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。							
第12回	単純性肥満の児童生徒の理解と教育的支援		単純性肥満の児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。							
第13回	筋ジストロフィーの児童生徒の理解と教育的支援		筋ジストロフィーの児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。							
第14回	心身症の児童生徒の理解と教育的支援		心身症の児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。							
第15回	重症心身障害児の理解と教育的支援		重症心身障害児の一般的特徴や状態像について概説し、重症心身障害児の理解を深める。医療的ケアの取り組みについて解説する。各教育の場における学習や生活指導等に関する教育的支援について理解を深める。							
評価方法及び評価基準	<p>評価は、定期試験、課題レポート、授業への参加度により総合評価(100点, 100%)をする。</p> <p>定期試験50点、50% 病弱教育に関する基本的な内容や専門的知識、指導・支援の方途に関する修得状況について評価する。</p> <p>課題レポート30点、30% 授業後に提出する課題について、授業内容を踏まえ自分の考えを論理的に述べているかを評価する。</p> <p>授業への参加度20点、20% 授業への参加度について評価する。</p>									
課題等	授業後に提出する課題レポートについて、提出後再考する点やさらに調べて理解を深める点を付し、次時に返却する。									
事前事後学習	各回の授業について、授業内容におけるキーワードを提示する。提示されたキーワードを調べ授業に臨む。授業後の課題レポート作成を通して授業内容の理解を深めるようにする。病弱教育に関する基本的内容の習得をめざす。									
教材教科書参考書	宮本信也・土橋圭子編集 『病弱・虚弱児の医療・療育・教育 改訂3版』、金芳堂 ISBN:978-4-7653-1627-9									
留意点	今日のインクルーシブ教育のシステム構築をめざした特別支援教育の取り組みの中で、病弱・身体虚弱児個々の教育的ニーズに即応した指導・支援の基本的内容の修得に努めてください。保護者理解及び生命倫理、人生観などについて考えて欲しい。授業中に紹介する関連図書を調べ病弱教育の理解を深めてください。									

科目名	肢体不自由者教育論Ⅰ		科目コード	W71007	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
	教職科目(特別支援)	必修	科目ナンバリング	W-KYT02-07.		30時間				
区分	教職科目(特別支援)	必修	担当者名	奈良岡 裕 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要	〔授業の主旨〕 肢体不自由教育の歴史、現状、児童生徒の理解、教育課程の編成、指導の内容・方法等に関する理論や知識を学び、肢体不自由教育の基本について理解を深める。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 DPの3に関連し、CPの1に関連している。									
到達目標	1 肢体不自由教育の歴史の変遷や現状及び対象となる児童生徒の障害についてまとめる。 2 肢体不自由教育における自立活動の重要性や主な指導内容について説明できる。 3 肢体不自由教育における教育課程編成に関する基本的事項について説明できる。									
授業計画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	ガイダンス、肢体不自由教育の理念		・「クルックベルハイム」について調べておくこと。 ・クルックベルハイムの理念 ・高木憲次が肢体不自由教育に及ぼした影響をまとめる。							
第2回	肢体不自由教育の歴史		・柏学園、都立光明特別支援学校について調べておくこと。 ・整形外科の発展と肢体不自由教育 ・講義内容を基に我が国の肢体不自由教育の歴史をまとめる。							
第3回	肢体不自由教育の現状と仕組み		・令和4年度青森県の特別支援教育で学校・在籍数を調べておくこと ・就学制度と特別支援学校数、特別支援学級数、在籍児童生徒数等 ・県内の肢体不自由者の教育の場をまとめる。							
第4回	肢体不自由児の理解		・「肢体不自由」の定義を確認しておくこと。 ・起因疾患と障害の理解 ・肢体不自由教育における起因疾患と変遷をまとめる。							
第5回	肢体不自由の障害特性と教育の意義		・「肢体不自由の障害特性」について調べておくこと。 ・肢体不自由の障害特性に応じた教育の役割 ・講義内容を基に学校でできるねらいや配慮事項をまとめる。							
第6回	教育課程Ⅰ 教育課程編成の基本		・「教育課程の意義」について調べておくこと。 ・教育課程編成の手順と評価 ・教育課程編成に関する法令についてまとめる。							
第7回	教育課程Ⅱ 重複障害者等に関する教育課程の取扱い		・「重複障害者等に関する教育課程の取扱い」を調べておくこと。 ・学校教育法施行規則と学習指導要領における規定 ・講義内容を基に各規定のポイントについてまとめる。							
第8回	教育課程Ⅲ 特別支援学校における教育課程編成		・「教育課程の類型化」について調べておくこと。 ・多様性に応じた教育課程編成の工夫 ・肢不特別支援学校の教育課程編成についてまとめる。						レポート提出	
第9回	教育課程Ⅳ 小・中学校における教育課程編成		・通常学級や特別支援学級での困り感について予想しまとめておくこと。 ・通常学級や特別支援学級における適切な学習 ・教育課程編成における両者の比較についてまとめる。							
第10回	肢体不自由教育の指導Ⅰ 自立活動		・「自立活動」の目的と内容について調べておくこと。 ・肢体不自由の特性に応じた自立活動の具体的内容 ・肢体不自由に関連が深い内容や配慮事項をまとめる。							
第11回	肢体不自由教育の指導Ⅱ 身体の動き		・「筋緊張、関節可動域、拘縮、運動発達」について調べておくこと。 ・肢体不自由の特性に応じた身体機能を高める学習 ・姿勢と運動の指導における注意事項をまとめる。							
第12回	肢体不自由教育の指導Ⅲ コミュニケーション		・肢体不自由児のコミュニケーション障害について調べておくこと。 ・コミュニケーションを豊かにする指導内容と補助手段の活用 ・自立活動のコミュニケーション区分の5項目についてまとめる。							
第13回	肢体不自由教育の指導Ⅳ 医療的ケア		・「医療的ケア」について調べておくこと。 ・医療的ケアの内容と実施に係る制度 ・医療的ケアを実施するための研修制度についてまとめる。							
第14回	肢体不自由の特性に応じた指導		・「ムブメント教育、動作法、図と地」について調べておくこと。 ・感覚-運動、視覚に働きかける学習 ・運動療法、心理療法についてまとめる。							
第15回	肢体不自由教育Ⅰのまとめ		・「肢体不自由者教育総論Ⅰ」での資料や小テストを整理・確認すること。 ・肢体不自由者教育論Ⅰの要点 ・改めて要点を確認して試験に備える。						レポート提出	
評価方法及び評価基準	講義への参加度(30%)、レポート(30%)、試験(40%)により総合的に評価する。 なお、レポート提出に加え、授業の進行を見ながら確認小テストを適宜実施する。									
課題等	レポートについて、授業で指示します。									
事前事後学修	配付された資料を基に各自講義を振り返り、主題毎に、授業内容を予習・復習し、学修を深めることが必要である。									
教材教科書参考書	安藤隆男・藤田継道編著(2015)『よくわかる肢体不自由教育』ミネルヴァ書房 他に、適宜資料を配布する。 なお、①特別支援学校 教育要領・学習指導要領、②特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚園・小学部・中学部)、③同解説 各教科等編(小学部・中学部)、④同解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)は、常時手許において参照できるようにすること。 参考書:『新版・キーワードブック特別支援教育-インクルーシブ教育時代の基礎知識』クリエイツかもがわ									
留意点	紹介する参考図書等を積極的に購読し、「肢体不自由教育」への関心を深めてほしい。									

科目名	肢体不自由者教育論Ⅱ		科目コード	W71008	単位数	2単位	対象学年	2年	開講学期	後期
			科目ナンバリング	W-KYT03-08	時間	30時間				
区分	教職科目(特別支援)	必修	担当者名	奈良岡 裕 (実務経験のある教員)			授業形態	講義	単独	
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>肢体不自由者教育総論Ⅰで学んだ基本を踏まえ、授業見学や映像視聴及び演習等を通して、肢体不自由教育に求められるより具体的な知識、技能、教育観について理解を深める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>DPの3に関連し、CPの1に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 肢体不自由教育の実践を見学し、特別支援学校や特別支援学級での学習活動についてまとめる。 2 肢体不自由教育における個々の実態に応じた具体的学習課題を選定することができる。 3 肢体不自由教育の課題や展望に関する基本的事項についてまとめる。 									
授業計画										
回	主 題		授業内容						備考	
第1回	学校現場の実際① 特別支援学校における教育		<ul style="list-style-type: none"> ・青森県内の特別支援学校(肢体不自由)のHPを調べておくこと ・小中高等部の概要、教育課程の編成 ・各校の状況を確認し、取組の現状を説明できる。 							
第2回	学校現場の実際② 特別支援学校における教育		<ul style="list-style-type: none"> ・北東北県内の特別支援学校(肢体不自由)のHPを調べておくこと ・センター的機能 ・医療的ケア ・進路指導 ・各校の状況を熟読し、教育課程のあり方を説明できる。 							
第3回	特別支援教育とICT		<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由教育における教材・教具について調べておくこと。 ・ICTの活用、自作教材・教具の作成と活用 ・教材・教具作成上のポイントについてまとめる。 							
第4回	保護者との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・「身体障害者手帳、育成医療、就学奨励費」について調べておくこと。 ・保護者との連携、関連機関との連携 ・保護者との連携についてまとめる。 							
第5回	指導の実際Ⅰ 脳性まひ		<ul style="list-style-type: none"> ・「脳性まひ」について調べておくこと。 ・特別支援学校における脳性まひ児の学習の実際 ・講義内容を基に脳性まひの指導上の配慮事項をまとめる。 							
第6回	指導の実際Ⅱ 重複障害(1)		<ul style="list-style-type: none"> ・「健全乳幼児の発達」に関する資料について調べておくこと。 ・領域別発達段階表を活用した重症心身障害児の実態理解 ・領域別発達プロフィールの作成手順についてまとめる。 							
第7回	指導の実際Ⅲ 重複障害②		<ul style="list-style-type: none"> ・「最近接領域」について調べておくこと。 ・発達課題から導き出される具体的指導内容 ・領域別発達プロフィールから指導内容を考えレポートする。 							
第8回	指導の実際Ⅳ 進行性筋ジストロフィー		<ul style="list-style-type: none"> ・「進行性筋ジストロフィー」について調べておくこと。 ・特別支援学校等における筋ジストロフィー児の学習の実際 ・講義内容を基に筋ジストロフィーの指導上の配慮事項をまとめる。 						レポート提出	
第9回	指導の実際Ⅴ 二分脊椎、先天性骨形成不全		<ul style="list-style-type: none"> ・「二分脊椎、先天性骨形成不全」について調べておくこと。 ・特別支援学校等における先天性骨形成不全の学習の実際 ・講義内容を基に先天性骨形成不全の指導上の配慮事項をまとめる。 							
第10回	キャリア教育と進路指導		<ul style="list-style-type: none"> ・「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」 ・キャリア教育の定義と意義 ・講義内容を基に進路指導の充実のための要素についてまとめる。 							
第11回	関係機関との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・「療育、医協連携、個別的教育支援計画」について調べておくこと。 ・特別支援学校と隣接医療機関との連携の実際 ・肢体不自由教育における関係機関との連携による効果をまとめる。 							
第12回	インクルーシブ教育システム構築 における肢体不自由教育		<ul style="list-style-type: none"> ・「インクルーシブ教育システムの構築」について調べておくこと。 ・肢体不自由に応じた合理的配慮の観点 ・期待されるコーディネーターの役割をまとめる。 							
第13回	肢体不自由教育に関連する福祉制度等の活用		<ul style="list-style-type: none"> ・「身体障害者手帳、育成医療、就学奨励費」について調べておくこと。 ・肢体不自由教育を支える諸制度とその活用 ・身体障害者手帳のメリットについてまとめる。 							
第14回	肢体不自由教育の課題と展望		<ul style="list-style-type: none"> ・「障害者差別解消法」について調べておくこと。 ・障害者基本法の改正等と学校教育 ・肢体不自由教育の今後の在り方についてまとめる。 						レポート提出	
第15回	肢体不自由教育Ⅱのまとめ		<ul style="list-style-type: none"> ・授業で配付した資料や小テストの内容を整理・確認すること。 ・肢体不自由者教育論Ⅱの要点 ・改めて授業内容の要点を確認して試験に備える。 							
評価方法及び評価基準	<p>講義への参加度(30%)、レポート(30%)、試験(40%)により総合的に評価する。 なお、レポート提出に加え、授業の進行を見ながら確認小テストを適宜実施する。</p>									
課題等	小レポートや課題レポートについて、授業で指示します。									
事前事後学修	配付された資料を基に各自講義を振り返り、主題毎に、授業内容を予習・復習し、学修を深めることが必要である。									
教材教科書参考書	<p>教科書 安藤隆男・藤田継道編著(2015)『よくわかる肢体不自由教育』 ミネルヴァ書房 他に、適宜資料を配布する。 なお、①特別支援学校 教育要領・学習指導要領、②特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚園・小学部・中学部)、 ③同解説 各教科等編(小学部・中学部)、④同解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)は、 常時手許において参照できるようにすること。 参考書:『新版・キーワードブック特別支援教育-インクルーシブ教育時代の基礎知識』 クリエイツかみがわ</p>									
留意点	紹介する参考図書等を積極的に購読し、「肢体不自由教育」への関心を深めてほしい。									

科目名	視覚障害者教育総論	科目コード	W71015	単位数	1単位	対象学年	2年	開講学期	前期
		科目ナンバリング	W-KYT01-10.	時間	30時間				
区分	資格関係科目	担当者名	中村 紹子 (実務経験のある教員)			授業形態	講義		単独
授業の概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>視覚障害教育の基礎・基本的な知識、理論を学ぶ。全盲、弱視（ロービジョン）の教育方法や内容を解説する。疑似体験や演習により理解を深める。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの2に関連する</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚障害教育における生理・病理・心理を学習する。 2. 視覚障害教育の基本的な内容を理解する。 3. 視覚障害教育について興味・関心を持ち積極的姿勢で授業に参加し、特別支援教育を担う心構えを身に着ける。 								
	授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	視覚障害、眼疾患と教育の場	視機能、視知覚、眼疾患の基礎知識 教育の場と実態把握							
第2回	視覚障害児の指導（弱視児）	見えやすい環境整備、教材、弱視レンズ、各教科での指導							
第3回	視覚障害児の指導（盲児）	触覚、触察、点字、各教科での指導							
第4回	点字	点字の歴史、概要、仕組み							
第5回	歩行指導	白杖の役割、メンタルマップ、援助依頼、手引き歩行							
第6回	視覚障害乳幼児の発達と支援	運動・動作、認知・言葉・社会性の発達、保護者支援							
第7回	教材教具と活用、自立活動	教科書、視覚補助具、グッズ ADL、手指の使い方、運動動作							
第8回	視覚障害教育を支える、総括	教育・医療・福祉の連携 スポーツ、障害者への理解推進							
評価方法及び評価基準	各講義後の小レポート（40点）、全部終了後にレポート（60点）を提出してもらう。								
課題等	予定していないが、講義の進度による。								
事前事後学修	講義後のレポートについて、次回解説して理解を深める。								
教材教科書参考書	資料を配布する。								
留意点	集中して、授業やレポートに取り組んでほしい。								

科目名	聴覚障害者教育総論		科目コード	W71011	単位数	1単位	対象学年	3年	開講学期	後期
			科目ナンバリング	W-KYT01-11.	時間	16時間				
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	川村 泰弘 (実務経験のある教員)			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>聴覚障害特別支援学校における教育を中心に、聴覚障害教育の制度や歴史および現状、聞こえの仕組みやその障害、聞こえを補う手段、聞こえの障害がもたらす発達上の特徴等について理解する。そのうえで、聴覚障害の早期発見と保護者支援、聴覚障害教育における教育課程や指導方法等についての学びを深める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2及びカリキュラムポリシーの1に関連する</p>									
到達目標	<p>1 聴覚障害教育の歴史を、聴覚障害教育に尽くした人物と主な業績および指導方法の変遷から説明することができる。</p> <p>2 聞こえの仕組みとその障害、聞こえを補う手段、聞こえの障害がもたらす発達上の特徴等について説明することができる。</p> <p>3 聴覚障害児教育の教育課程や指導方法の概要等について説明することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	聴覚障害児教育の歴史		聴覚障害児教育の発展に尽力した人々とその業績、指導方法の変遷等を通して我が国聴覚障害教育の歴史を理解する。					毎回の授業終了時に予習シートを配布する		
第2回	聞こえの仕組みと障害の種類		聞こえの仕組み、障害を受けた部位による聴覚障害の分類とその特徴、障害による聞こえの型について理解する。							
第3回	障害の早期発見と保護者支援		聴覚障害の早期発見と保護者支援の必要性を理解するとともに新生児聴覚検査法について理解する。					小テスト1		
第4回	オーディオグラムの見方と平均聴力損失の計算方法および補聴器の取扱い		オーディオグラムの見方と平均聴力損失の計算方法について理解し、四分法で平均聴力を算出する。補聴器の保守について理解する。							
第5回	聴覚障害者の言語の獲得と言語使用の特徴		聴覚障害であることによる言語の獲得の困難と言語使用の特徴について理解する。					小テスト2		
第6回	聴覚障害とコミュニケーション		聴覚障害児の指導で用いられている手話、筆記、聴覚口話、指文字、キューサイン等のコミュニケーション手段の長所と短所を理解する。							
第7回	聴覚障害教育の教育課程		聴覚障害特別支援学校(小～高等部)における教育課程編成の基本的な考え方と各教科等の指導の工夫について理解する。					小テスト3		
第8回	聴覚障害教育における自立活動		聴覚障害教育における自立活動の内容と指導上の留意事項について理解する。					小テスト4		
評価方法及び評価基準	<p>○予習シートの作成20%、小テスト40%、レポート課題40%の割合で評価する。</p> <p>・予習シート：授業終了時に配布する予習シートを作成し、授業終了後にコピーを提出する。</p> <p>・小テスト：講義開始時に短時間テストを実施し、その平均点で評価する。</p> <p>・レポート：「聴覚障害教育と手話」に関するレポート（1200字程度）により評価する。</p> <p>※予習シート及びレポートは、別途配布する評価基準表により評価する。</p>									
課題等	返却された小テストの間違いの箇所を訂正して理解を深めること。									
事前事後学習	予習：授業終了時に配布する予習シートに示す項目について予習を行い授業に臨むこと。 復習：授業を振り返り、小テストに備える。また、授業中の疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。									
教材教科書参考書	教科書：随時、資料を配布する。									
留意点	特別支援学校小・中部学習指導要領及び高等部学習指導要領とその解説（総則等編・自立活動編）は、教科書として指定しないが常時手元に置くこと。									

科目名	重複障害者教育総論		科目コード	W71012	単位数	1単位	対象学年	3年	開講学期	後期	
			W-KYT01-12.	単位時間	16時間						
区分	教職科目(特別支援)	必修	担当者名	川村 泰弘 (実務経験のある教員)			授業形態	講義	単独		
授業の概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>障害が重複し、重度である障害児であっても、それぞれに多様な教育的ニーズを抱えていることを理解し、学校教育として何を目標に、どのような内容・方法で教育・支援を行っていくべきかを考える。講義に加えて、重複障害、重症心身障害児の日常を記録したドキュメンタリー映画等の視聴を通して、重複障害の特性と実態把握、心理と教育課題、さらには医療や福祉との連携の大切さについて学ぶ。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの2及びカリキュラムポリシーの1に関連する</p>										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 重複障害の定義を説明できる。 2 重複障害児に対する教育の現状、重複障害者等に関する教育課程編成の取扱いの概要を説明するとともに、カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を身につける。 3 重複障害児の障害状況に応じた課題学習と具体的指導方法を選択することができる。 4 教育と医療や福祉との連携の必要性を説明できる。 										
授業計画											
回	主 題		授 業 内 容					備 考			
第1回	重複障害の定義と関連する用語		<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示す重複障害の定義を理解する。 ・重度・重複、重症心身障害等関連用語を理解する。 					毎回の授業終了時に予習シートを配布する			
第2回	障害の重複・重度化の現状		<ul style="list-style-type: none"> ・障害の重複・重度化の現状と教育の場を理解する。 					DVD 「盲ろうの教育」視聴	小テスト1 視聴レポートを課す		
第3回	「盲ろう」の疑似体験		<ul style="list-style-type: none"> ・盲ろう者とその介助者役の両方を体験することを通して、重複障害者の心理と支援の基本を理解する。 ・重複障害児の指導において大切にしたい視点を整理する。 					視聴レポートの提出 疑似体験レポートを課す			
第4回	重複障害児のコミュニケーション		<ul style="list-style-type: none"> ・発信行動と受信行動の考えを基にした重複障害児のコミュニケーションの定義とコミュニケーション関係を築くための基本的な係わり方を理解する。 								
第5回	重複障害児の教育課程		<ul style="list-style-type: none"> ・重複障害児に対する教育課程の編成(訪問教育を含む)の基本的な枠組みを理解するとともに、カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を理解する。 					小テスト2			
第6回	重複障害児の指導		<ul style="list-style-type: none"> ・指導課題の設定と指導内容・方法—「感覚と運動」「学習・概念行動」・「記号操作」—を知り、あわせて指導事例を基に、個別の指導計画を作成する。 					小テスト3			
第7回			<ul style="list-style-type: none"> ・市販アプリやタブレット端末等を活用した生徒の自発的行動を促す指導の工夫。 								
第8回	医療的ケアの現状と課題まとめ		<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校等における医療的ケアの基本的な考え方と実施体制の在り方を理解する。 					小テスト4			
評価方法及び評価基準	<p>○予習シートの作成20%、小テスト40%、レポート40%の割合で評価する。</p> <p>・予習シートの作成：授業終了時に配布の予習シートを作成し、授業終了後にコピーを提出する。</p> <p>・小テスト：授業開始時に短時間テストを実施し、その平均点で評価する。</p> <p>・レポート：ドキュメンタリー映像の視聴レポート及び盲ろうの疑似体験レポートにより評価する。</p> <p>※予習シート及びレポートは、別途配布の評価基準表により評価する。</p>										
課題等	返却された小テストの間違いの箇所を訂正して理解を深めること。										
事前事後学習	<p>予習：授業終了時に配布する予習シートに示す項目について予習を行い授業に臨むこと。</p> <p>復習：授業を振り返り、小テストに備える。また、授業中の疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。</p>										
教科書参考書	教科書：随時、資料を配布する。										
留意点	特別支援学校小・中学部学習指導要領及び高等部学習指導要領とその解説(総則等編・自立活動編)は、教科書として指定しないが常時手元に置くこと。										

科目名	発達障害者教育総論		科目コード	W71013	単位数	2単位	対象	3年	開講	前期
			W-KYT01-13.	時間	30時間	学年				
区分	教職科目(特別支援)	必修	担当者名	川村 泰弘 (実務経験のある教員)			授業	形態	講義	単独
授業の概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>ASDやLD、ADHD等の発達障害について、それぞれの障害の要因や障害特性を理解する。また、感覚や認知及び行動の特性等に起因する対人関係の形成の難しさや、二次的な障害などさまざまな発達上の課題とその解決の方向性を探る。発達障害者に対する特別的教育課程の編成や、指導内容や方法を考えることを通じてカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を理解するとともに、地域のセンターとして特別支援学校の果たす役割の必要性を再確認する。 ※講義形式の授業であるが、可能な限り予習シートに基づく協議を取り入れる。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの2及びカリキュラムポリシーの11に関連する</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 ASDやLD、ADHD等の発達障害の要因と障害特性について説明できる。 2 発達障害者一人一人の状態、感覚や認知及び行動の特性に応じた基本的な教育的支援(自立活動との関連)について説明できる。 3 発達障害のある児童生徒の指導事例を通して、特別支援学校が地域のセンターとしての果たすべき役割を説明できる。 4 個別の指導計画の作成をとおして特別的教育課程の編成とカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を理解する。 5 家庭や医療、福祉及び労働機関との連携の重要性を説明できる。 									
授業計画										
回	主題		授業内容						備考	
第1回	教育における発達障害		発達障害者の指導の場とそれぞれにおける特別的教育課程の編成の基本的な考え方を理解する。さらに、幼稚園教育要領及び小学校、中学校又は高等学校校学習指導要領に記載の障害を有する児童生徒に対する配慮事項を確認する。						毎回の授業終了時に予習シートを配布する	
第2回			「自閉症」という概念と、その要因にまつわる歴史的経緯を理解する。							
第3回	ASD(自閉スペクトラム症)の理解と支援		自閉スペクトラム症の定義と障害特性を理解する。							
第4回			TEACCHプログラム、構造化、視覚的情報の活用等を中心とした自閉スペクトラム症の生徒への教育的対応を考える。							
第5回			LD(学習障害)の定義と障害特性を理解する。						小テスト1	
第6回	LD(学習障害)の理解と支援		難易度を考慮した課題提示、スモールステップ化など学習障害の学習・行動特性に応じた教育的対応を考える。 読み書きをサポートするICT教材・機器の活用について考える。							
第7回	ADHD(注意欠如・多動症)の理解		ADHD(注意欠如・多動症)の定義と障害特性を理解する。						小テスト2	
第8回			ソーシャルスキルトレーニング、環境調整などADHDの生徒への教育的対応を考える。							
第9回	校内体制の確立と関係教育機関の連携		校内委員会の役割と特別支援教育の全体計画の立案など、校内指導体制の確立と域内の幼稚園や小中学校等との連携の在り方を考える。						小テスト3	
第10回	高校通級の現状と課題		高校における「通級による指導」の導入の経緯と現状を知り、現在抱える問題点の解決のためのアイデアを考える。						ディスカッション	
第11回	発達障害児に見られる感覚と運動の問題		感覚の過反応や運動面の不器用さから学校生活の困難と自尊心の低下を招くことがある。その特性を理解し教育的対応を考える。						ディスカッション	
第12回	二次的な障害の理解と予防		二次的な障害とはどのようなことが、また、その予防的な取り組みに向けて、学校教育の中でどのような指導や支援が必要かを考える。						レポート課題の提示 ディスカッション	
第13回	個別の指導計画の作成		指導事例に基づく個別の指導計画の作成を通して特別的教育課程の編成とカリキュラム・マネジメントの基礎的考え方を理解する。						個別の指導計画の作成(演習)と提出	
第14回	家庭や関係機関との連携と支援連携・協働		発達障害者に対する有効な指導と生活の質の向上を図るため、家庭や他機関の専門家との連携・協働のあり方を探る。						小テスト4 レポートの提出	
第15回	インクルーシブ教育の現状		合理的配慮と基礎的環境整備の現状とインクルーシブ教育システム構築の課題を理解する。							
評価方法及び評価基準	<p>○予習シートの作成20%、小テスト40%(小テスト30%+演習課題10%)、レポート40%の割合で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習シート:授業終了時に配布する予習シートを作成し、授業終了後にコピーを提出する。 ・小テスト:授業開始時に短時間テストを実施し、その平均点で評価する。 ・レポート:「インクルーシブ教育システム、二次的な障害、合理的配慮」をキーワードに「発達障害を有する生徒の学校生活」に関するレポート(1200字)により評価する。 <p>※予習シート及びレポートは、別途配布の評価基準表により評価する。</p>									
課題等	返却された小テストの間違いの箇所を訂正して理解を深めること。									
事前事後学習	<p>予習:授業終了時に配布する予習シートに示す項目について予習を行い授業に臨むこと。</p> <p>復習:授業を振り返り、小テストに備えること。また、授業中の疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。</p>									
教材教科書参考書	教科書:随時、資料を配布する。									
留意点	特別支援学校小・中学部学習指導要領及び高等部学習指導要領とその解説(総則等編・自立活動編)は、教科書として指定しないが常時手元に置くこと。									